

もったいない・おかげさま・ほどほどに、が環境と人間を育てる

も う

M・O・H通信

M-O-H communication

35号

2012

Spring

特集：地域「ふるさとに生きる」

《M・O・H通信》受付中!

あなたも「M・O・H通信」を読んでみませんか。特典として、M・O・H通信、講演会のご案内をいたします。あなたの活動やこの通信についての、ご意見もお聞かせください。

お名前、年齢、郵便番号、住所、電話番号、

fax(あれば)、e-mailアドレス(あれば)、心に残った一言をご記入の上、お申し込みください。通信をお送りします。申込書をfax、郵送、mailでお送りください。

《M・O・H通信》申込書 0749-72-8681

フリガナ		年齢	希望冊数
お名前			
住所	〒		
電話	FAX	メールアドレス	
あなたの心に残った一言、MOH川柳をお書きください。			

※記入いただいた内容については、目的以外のごことに使用または転用はいたしません。

キリトリ線

M・O・H通信 Vol.35 (通巻36号) 2012年3月20日発行 発行部数6,000部

●編集・発行/新江州(株)

循環型社会システム研究所
M・O・H通信編集局

代表 森建司

編集長 つじむらことみ

校正協力 稲垣重雄

取材 山崎彩

デザイン 伊達デザイン室

写真 辻村写真事務所

印刷 ブランセル

ホームページ ブランセル

ブログ 滋賀・咲くブログ

●執筆者懇談会

内藤 正明	畑 裕子
海東 英和	堤 幸一
山田 朝夫	進 ひろこ
下西 康嗣	中村 誠
末永 國紀	笹山 千怜
花田 真理子	結城 美枝子
弘中 史子	松崎 和弘
今関 信子	井上 昌幸
山崎 隆	辻村 耕司
三山 元暎	佐々木 洋一
加藤 みゆき	徳永 拓美
清水 安治	山口 美知子
檀上 俊雄	岡部 達平
森 孝之	豊田 一美

(順不同・敬称略)

●ご協力

滋賀県 琵琶湖環境科学研究 センター 循環共生社会S研究所 高島森林体験学校 麻生里山センター	NPO法人環人ネット 近江環人地域再生学座 もったいない学会 野洲生活学校 EEネット 中小企業家同友会 (順不同)
--	--

●支援

新江州(株)
〒526-0111 滋賀県長浜市川道町759-3
TEL.0749-72-5277 FAX.0749-72-8681

★ブログ 滋賀・咲くブログ★
<http://moh.shiga-saku.net/>

★ホームページ★
<http://www.mohmoh.jp/>

MOH図書館

検索 

※記事中での写真・本文につきましては、無断転載を禁じます。

韓国デビュー…



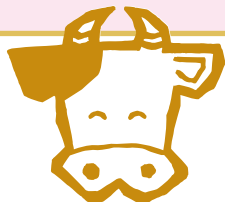
湖東三山西明寺の絹本著色十二天像(重要文化財)をはじめ多くの文化財が海を渡った



韓国のソウル市中心にある国立中央博物館で「日本 仏教美術一琵琶湖周辺の仏教信仰―」が開催されました。国宝、重要文化

財など滋賀県の仏教美術が多くて多くの観客を魅了しました。この博物館は2005年に開館し入場者数世界第9位を誇ります。入場料は無料で、2月は春休みということもあり、多くの子もたち、家族連れでにぎわっていました。子どもたちのグループにはボランティアのガイドさんが説明されます。あちこちで車座になり展示物のディスカッションが始まります。賑やかで熱心な館内には若い力がみなぎるようでした。同展示の案内を担当するボランティアさんは「私は幸福な2ヶ月間を過ごしました」、とってくれました。日本から来た檀家の方が、初めて目にする文化財も展示され、日本からの入場者も多かったとか。本物の良さを知り、伝えることは万国共通の共有感をと共に持つことにつながるのかもしれない。

財など滋賀県の仏教美術が多くて多くの観客を魅了しました。この博物館は2005年に開館し入場者数世界第9位を誇ります。入場料は無料で、2月は春休みということもあり、多くの子もたち、



「M・O・H」のマーク=牛

牛は環境の象徴ともいえます。牛糞はメタンガスになり、肥料にもなります。大地を作り、食物を育て、生物を養います。私たちは命の源ともいえる、牛を「MOH」のマークとし、循環型社会の象徴とします。

★M・O・H通信の役割★

持続可能で豊かな循環型社会を築く社会人の意識を向上するためMOH通信は情報を発信し交流を続けます

- M → もったいない **循環** 他人の生命を奪って得たものを使わせて頂く
- O → おかげさま **共生** 人は一人では生きられない、環境によって生かされている
- H → ほどほどに **抑制** 欲はほどほどに、良き環境を作り上げるために

contents

目次

特集「地域」— ふるさとに生きる

M・O・Hレポート-1

全国に認められる、近江ブランドを目指して
滋賀県産の「美味しい」を県外にPR 清水 裕之 …… 5

M・O・H対談

健康で幸せな未来のために
バイオの明日と倫理観 三輪 正直 & 森 建司 …… 11

寄稿

琵琶湖という「ふるさと」マザーレイクに想う 大沼 芳幸 …… 20

M・O・Hインタビュー いまの時代をどう生きていくのか？

現代社会で自分らしく生きるため
新たな地に根ざす人々の姿を追って 田代 陽子 …… 25

寄稿

南三陸田の浦漁港物語 鷗飼 修 …… 32

里のお話

春の木 三山 元暎 …… 38

寄稿 滋賀未来戦略サロン活動報告

未来を語り合おう 川内 愛子 …… 39

寄稿

地域に恋して 北井 香 …… 45

M・O・Hレポート-2

花屋でイチゴが買える!?
純野菜王国のチャレンジ 吉安 純一郎 …… 51

寄稿 地域創造事業「いきいき地域ウオーク」

彦根袋町 遊里・貸座敷探訪
彦根袋町を訪ねて 福山 聖子 …… 55

レポート 坂下弘徳 …… 57

商家の家訓の話 第20回

後継者育成に尽くした女性—西谷善蔵の母 末永 國紀 …… 59

愛する風景

梅に鶯 畑 裕子 …… 61

漫画

山暮らし子育て日記 オノ ミユキ …… 63

本の紹介 …… 65

講演日記 …… 66

イベント紹介 …… 67

M・O・Hニュース …… 68

通信概要 …… 69

読者の声 …… 70

表紙写真

辻村耕司

国選択無形民俗文化財 下笠のサンヤレ踊り(草津市老杉神社)
毎年5月3日に草津市内の7集落で囃子物風流の流れをくむ踊りが奉納されます。

詳しくは「近江の祭りを歩く」サンライズ出版をご覧ください。



地

■ 地域 — 「ふるさとに生きる」

域

春の八幡堀、キショウブが咲き競います。
ハナショウブが咲き始めると夏を迎えます。

昨今の社会環境はどうなっているのだろう。経済問題の入り組んだ複雑な課題、エネルギー問題、関連して原発是非論。わが国の少子高齢化とそれに伴う社会福祉や財政危機。地球規模での人口爆発と食料問題。東日本大震災以後、次々に公表される首都圏直下型地震等を含む災害予測。どれを取っても肝を冷やす大問題である。

この中で若い人たちは未来にどのように希望をつないでいくのか。

今まで安定した環境に恵まれてきたわれわれが、その基盤となる社会や自然に寄せていた信頼がいかに脆弱でもろいものであったか。経済問題一つをとっても、国際的な金融施策等による経済危機など、まさに経済至上主義のもとに膨れ上がった架空の銀世界が、われわれに多少の夢と希望を感じさせただけのものだった。

経済至上主義の恩恵を受けて、経済成長とともに収入も増え、物質的には不自由なく恵まれた生活をわれわれは

享受してきた。企業の増産体制のもとで、設備投資や雇用も拡大が続き、企業に所属している限りは豊に暮らせたのだ。その産業の活性化を背景にして、財政も余裕があり社会保障も充実して、外国と比べても遜色のない暮らしが出来てきた。

しかし、経済至上主義もその存在を根

大企業は存続すら危なくなってくる。

そのような時代を背景にして、経済社会はどう変わっていくのだろうか。いや変えていかなければならないのだろうか。

エネルギー問題ではその対応をスマートコミュニティという形で提案している。

これは「自立する地域経済」の大原則である。経済至上主義の大企業によって衰退させられた地産地消による地域産業の復活、あるいは創生も同じである。

自分たちの地域は自分たちで守る。生産者と消費者、コミュニティが一体となった地域経済をつくり、持続可能社会に変えていかなければならない。

世に「強力な真のリーダー」が現れないことには、この混沌の時代は越えられない。歴史に名を残すリーダーはいないものか。というような嘆き節も聞かれるが、今こそ先ずわれわれ自身が、生きていくために何をすべきかを、真剣に考えて行動に移すことが新時代への第一歩となる時が来ているのだ。

自立型地域経済は だれが創るのか

森 建司

底から揺るがす自己矛盾があった。その矛盾の拡大とともに、課題が山積され存在が危なくなっている。企業が成長することが人の幸せに貢献できた時代から、現在では縮小する需要に対して供給過剰に陥り、コストダウンの上からも人件費の節減は必要条件となっている。企業間競争に打ち勝ち、拡大を続けられない

全国に認められる、近江ブランドを目指して 滋賀県産の「美味しい」を県外にPR



花様 ka-you
清水 裕之

株式会社ガーデン 代表取締役社長
株式会社EVERGREEN 代表取締役社長

生産・仕入・流通・販売を トータルで把握

近江野菜が美味しい自然和食ダイニングとして人気を集めている「花様 ka-you」という飲食店が大阪に6店舗あります。この店の特徴は、滋賀の味に徹底してこだわっていること。なぜ大阪で滋賀に特化した飲食店が人気になったのか？ 社長の清水裕之さんのお話から、「もったいない」精神と人気店の意外な接点がみつかりました。

- ガーデン滋賀本社／守山市
- 2012年1月

滋賀県産にこだわった
飲食店と農産物直売所で
コンセプトをPR

農家直接仕入の近江野菜に、近江牛、赤こんにゃく、琵琶湖の湖魚、近江米に燕や日野菜のお漬物、自家栽培の大豆と米を原材料として天然醸造した麹味噌、滋賀県民でもなかなか目にする機会がない県内各地の伝統特産品など……大阪にあるダイニング「花様kayou」のテーブルには、地元で認められた滋賀の美味が並ぶ。おいしい滋賀食材の料理と飲み物をお洒落な雰囲気です。ズナブルに楽しめる店として人気が高く、常連には滋賀の人も多



自家栽培ファームの近江赤かぶドレッシング

全てが滋賀県産の農産物・特産品直売所「近江の駅」



いと評判の店だ。
滋賀県各地の生産者から自社のトラックで直送する食材は料理で使うばかりでなく、「花様kayou NU茶屋町店」に併設した農産物・特産品直売所「近江

の駅」で直売もしている。滋賀県内100軒以上ある農家の野菜を中心に、守山、野洲、草津、栗東、大津、高島、湖南、甲賀、東近江、近江八幡、蒲生郡、愛知郡、米原、彦根、長浜などの、地元で



10種類の近江おばんざい信楽焼お膳 850円

長年愛され認知されている滋賀の特産品が揃っていて、滋賀県人も納得のセレクション。大阪梅田の一等地にあるにもかかわらず、店頭に並ぶ農産物の価格は滋賀県内直売所とほとんど同じなのは驚かされた。

花様 k a y o u を経営する株式会社「ガーデン」社長の清水裕之さんは、この直売所を滋賀県産のブランドPR活動と位置づけている。新鮮な近江野菜の美味しさを広く県外の方に知ってもらいたい、そして近江の伝統ある、こだわりの味を紹介したいという清水さん

の熱い思いが商品の構成からも伝わってくる。

「私にとって『近江の駅』は、8年前から実現したかった店。全国各地の有名な特産物が集まる天下の台所、大阪の中心地で滋賀県を売り出したかった。改めて振り返ってみると、当時、ドロドロの軽トララックで訪ねてきた私をよく信用してくれたなあと思うんですよ」

農業や漁業・畜産業の実情も知らず、流通の仕組みもわからない、コネも実績もお金もない自分を信じて取引をしてくれた県内生産者の人たち。会社の経営安定化のためにがむしゃらに突っ走っていた頃よりも、世の中の流れがよく見えるようになった今、感謝の気持ちは一層強くなっているという。

本当の産地直送の

原点になった

「もったいない」の精神



花様 k a y o u の人気を支えているのはとびきりの鮮度の良さ。その秘訣は、生産・流通・販売を自社で全てトータル

に把握するシステムにある。しかし、お金を払いさえすればなんでも仕入れられるという単純なものではない。農業を取り巻く経済環境から、農家ごとの個別の事情までを考慮しなくては、継続的な信頼関係は築けない。

特に、生産者と日々取引をすることは一般的でないため、直に仕入れを頼みに行っても、門前払いされることが多かった。それでも、ここのものならぜひ仕入れたいと思う生産者には一軒ずつ頼んでまわり、何度も足を運んだ。そこ



伊吹山麓豚と竜王足太あわび茸と近江野菜タジン蒸し鍋コース 4300円



までして生産者からの直接仕入れにこだわったのは「もったいない」という強い思いがあったから。「仕入れ先を開拓しよう」とトラックで畑を走らせていると、畦道の脇に大根や蕪がいつぱい捨てられているのをおちこちでみました」

規格よりも大きく育ちすぎてしまったからと放置された野菜畑。収穫しないまま重機で掘りおこされ、愛情込めた野菜がめちゃくちゃにちぎれて土ごと飛び散っていく様子は、いまま清水さんの目に鮮明に焼きついている。味はいいのに、規格に合わないという理由だけで捨てられている多数の農産物を目の当たりにして胸が痛んだ。

「日本ではあらゆる食べものがいかに粗末に捨てられているか。世間では自給率が低いと危機感をつのらせているが、販路のない廃棄される農産物は山ほどある。世間との矛盾に疑問を感じることもしばしば。大きすぎるから、小さすぎるから、あるいは傷があるからとB級品、

- ① JR大阪駅、御堂筋線心斎橋駅から徒歩5分圏内にある花様ka-you全6店舗
- ② 滋賀県に興味がある県外のお客様は年間30万人以上訪れます
- ③ 滋賀県出身の新郎新婦様にぴったりのブライダルや二次会、婚礼会食

C級品として扱われる野菜でも味はおいしいんですよ。もったいない、もったいないとずっと思っていました」

野菜に傷があればそこだけ削ればいいし、大きさにばらつきがあっても調理の仕方や切り方を工夫すれば美味しい料理に変身する。さらに、レストランでそのまま使えないような規格外の野菜や果物をドレッシングやジャムに加工して販売する取り組みも昨年から始めている。

また、直売所「近江の駅」を開いて、初めて気づいたことも多かった。たとえば、滋賀では見向きもされないような規格外の小さな大根が、大阪では大きなものよりよく売れるのだ。勤め帰りに重い荷物を持ち歩きにくいことや生活環境、家族構成の違いから、大阪の人は滋賀よりも少量のものを頻度高く買う傾向がある。滋賀でB級品として扱われる野菜が大阪の消費者に喜ばれ、おいしい食材として認められる。農家からの買い付け、輸送、陳列、レジや接客まですべて自らやっている清水さんだからこその日々の発見がある。



継続していくために なによりも大切なこと

「近江ブランドを全国に認知させますー」世の中の不況など吹き飛ばすような明るい笑顔で、清水さんはきっぱり言い切る。年内には、新規事業として飲食店2店舗と、県内に食品加工所、集荷所を開店する予定だそう。

「地場のいいものを、私が窓口になって自社の店だけでなく、県外の取引先まで販路を構築し、紹介できたなら、みなさんに喜んでいただけるんじゃないかと思っています」

店を訪れたお客さんに滋賀県内の生産者の情報を発信しPRすることで生産者に喜ばれ、生産者の認知度が高まれば高まるほど店にとってもプラスになる。そして、お客さんにはより幅広い滋賀県の情報を知ってもらえる。

「一ヶ所だけに利が回っているようでは続かない。まわりの方々にも利がもつと回れば、いまの仕事を継続しているのではないかと考えています。継続していくことで信用を得る。そのこ

とで、人との出会いがさらに広がっていくのが楽しみなんですよ」

ポランティア精神だけで始めると、長い目で見た場合、モチベーションが低下し、資金難に陥り撤退という結果に終わる例を数多くみてきた。まずなによりも継続していくことを大切に考えているから、売り手よし、買い手よし、世間よしの全体的な商売の仕組みを常に考える。

「その日に商品を購入して下さったお客様の声や感想を、ダイレクトに生産者様に伝える。商品の構成、開発、改善のスピードが大切で、よりよい商品が出来上がる。売上が伸びた時の生産者様への結果報告が最高に楽しいですし、やりがいを感じます」

経営を拡大しても、自らトラックを毎日運転して畑やハウスへ仕入れに通い、農家のおじさん、おばさんと世間話で盛り上がる。年代関係なく、人と関わるのが大好きで、根っからのおしゃべり。清水さんの原動力はそこにあるようだ。



まずは「売り手よし、買い手よし、滋賀県よし」を目指します

信はかなり 清水裕之

●しみず ひろゆき 1972年3月生まれ。1995年に大学を卒業して大手パレル会社に就職。1997年大阪市内の飲食会社へ転職。店長、事業部長を経て、2004年に店舗再建プロジェクト事業の会社に移り、取締役に就任。関東、関西のレストランやダイニングの再建を手がける。この間に業務委託先の「花様kayou北堀江」を再建。後に4店舗の花様kayouを新規オープンする。2008年、花様kayouの経営権を全て譲り受けて独立、株式会社ガーデンを設立。現在は大阪市内に花様kayou 6店舗のほか、株式会社EVERGREENが運営する滋賀県農産物・特産品直売所の「近江の駅」、インターネット通信販売の「近江市場」を運営している。

●株式会社ガーデン

●滋賀本社 滋賀県守山市木浜町1-866番地

TEL 077-5585-4809

●滋賀集荷所 滋賀県守山市木浜町1-866番地

TEL 050-33666-7075

●大阪支社 大阪市西区靱本町1-7-3 PAX本町ビル2階

TEL 06-4003-8500

●花様kayou 東梅田

大阪市北区太融町5-15
梅田イーストビル2階

TEL 06-6362-8010

●花様kayou 西梅田

大阪市北区堂島2-2-34

クリエ堂島ビル2階・3階

TEL 06-6334-2998

●花様kayou 南船場

大阪市中央区南船場4-7-6

心斎橋中央ビル地下1階

TEL 06-6258-0396

●花様kayou 北堀江

大阪市西区北堀江1-9-14

PAN1914ビル2階

TEL 06-6536-1521

●花様kayou 阪急茶屋町

大阪市北区芝田1-7-2

阪急かつば横町2階

TEL 06-637-6880

●花様kayou Nuchayamachi

大阪市北区茶屋町10-12

Nuchayamachi地下1階

TEL 06-6225-7083

●滋賀県農産物・特産品直売所 近江の駅

大阪市北区茶屋町10-12

Nuchayamachi地下1階

TEL 06-6225-7083

●滋賀県農産物 特産品ネット販売 近江市場

<http://gden.jp>



●対談
三輪 正直
長浜バイオ大学 学長



森 建司
循環型社会システム研究所 代表

〈 地域「ふるさとに生きる」— ② 〉

健康で幸せな未来のために バイオの明日と倫理観

長浜にある「長浜バイオ大学」はバイオを総合的に学べる全国で唯一の単科大学です。今後も発展していく可能性を秘めた新分野の大学として、滋賀県の産業界からも熱い期待を集め、滋賀バイオ産業推進機構などとも連携して産官学でさまざまな研究が進められています。今回は長浜バイオ大学学長、三輪正直さんをお招きして、バイオビジネスの未来について、混乱している現代日本の政治経済について、さらにバイオ教育のためにもこれからの日本のためにも考えなくてはいけない倫理についてお話していただきました。

■北びわこホテル グラツィエ
■2012年1月19日

**自分で考え、投票すること
社会を少しずつ変えていく**

森 政治、経済がむずかしい局面を迎えています。いまの社会情勢をどう感じられておられますか？

三輪 いまの政治がなっていないという意見もありますが、一国民としては選挙で選んだ責任もあると考えています。私が東大医学部にいた頃に大学紛争があつて、周囲の医学生は理想に燃えて厚生省の低医療費政策に反対する運動をしていたのですが、社会は一朝一夕に変わるものではないと感じました。社会を変えるためには、どうすればいい社会になっていくかを自分で考えて選挙に行かなくてはいけないと思えました。まどろっこしいようですが、民主国家ではそれしかないでしょう。

森 確かに、まず選挙に行かないとダメですね。

三輪 そうやって自分の意見を表さないと、グループでまとまった人たちの意見だけが通ってしまいますから。たとえば私の分野では、動物実験に対す

る社会的関心が高まり、動物愛護団体の強い意向で動物愛護法が5年前に改正されました。その法律の見直しの時期を迎えて、動物愛護団体の力が強くなりつつあり動物実験がますますやりにくくなってきたと感じています。

森 人間の健康を守るために実験をしているわけですからね。

三輪 動物愛護団体の方の意見ではベクトル以外のものに言及されていないようです。たとえばわれわれは肉を食べるために家畜を殺さないといけない、あるいはゴキブリを叩くことをどう考えるのかと、思うことがあります。一部の意見だけが通ると、どんどん研究がやりにくくなる現実があります。政治も同じで、やはり一人一人の研究者が意見をだしていくしかないと思います。

森 鳥インフルエンザのときに何十万羽という鶏を殺したのも、結局は人間の命を守るためにやったことですし。

三輪 動物愛護も社会の一つの流れです。から、実験動物をなるべく苦痛のないように扱うとか、命をいただく動物の数を最低限にして結果がでるように実

験をデザインする、あるいは動物実験を組織培養や細胞培養に替えられないかなど、研究者がより考えるようになってきたのは良いことです。しかし、人類のために命をいただいで研究しなくてはいけないこともあると理解していただきたいと思います。

森 私が子どもの頃は家で鶏やウサギを飼っていて、子どもが世話をしていました。お客さんがあると、その鶏をすき焼きにするんですよ。子どもは育ててきたのでシヨックなんです。ご飯のときに「鶏さん、ごめんさいと手を合わせて、残さず食べないといけないよ」と母に言われました。いまはスーパーで肉を買っているので、生きている姿を想像して感謝する気持ちで薄れているのかもしれないね。

**高まる産業空洞化の懸念
地方を大切に考える方へ**

三輪 経済はよくわからないんですが、何かが起こった後で、みなさんいろいろ言っていますよね。予測はできないん

でしょうか？

森 産業の空洞化が起こるといわれています。資本主義社会では上場企業は株主の意向に沿わないといけない。株主は企業が拡大して株価が上がることを期待するから、企業は日本を捨ててどんどん海外にでていってしまう。日本経済全体をみるとまた違うかもしれませんが、地に足のついた地域産業の振興や、サービス業まで含めた農業など、空洞化の対策を打たないと将来たいへんなことになると思います。

三輪 TPPも世界の流れでどうしてもやらなくてはいけないようですし。

森 私は国を変えるのは政治と産業だと思っています。そして政治と産業を変えることができるのは消費者であり、選挙民である市民です。ところが、日本経済を支えないといけない消費者が、安い外国製品ばかり買っているのが現



自分で考える人に育ってほしい (三輪氏)

状です。

三輪 安い外国製品だけを買っていたらどういふ結果になるのか、みなさん全体がみえていない。経済のからくりを学ぶなどの教育が必要かもしれません。

森 及ばずながら弊誌を通して、自立した地域経済を守り育てていくのは消費者の責任であり権限であること、そしてものを大切にすることを伝えていきたいと考えています。

三輪 若い人だけでなく、壮年層やお

年を召した方たちもそういう意識をもつことがまず必要ですね。

**互いの違いを認め合う社会
教育ができること
とは**

三輪 教育は私たち大
学教員が一番責任も
つてしなくてはいい
ことですが、とても
むずかしいです。こ

う風にやりなさい、こういう風に考えなさいといった思想統制をするのではなく、学生たちには自分の頭で考える人、納得がいくまで考える人になって欲しいと願っています。

森 実は私は高校しか出ていないんです。昔から近江商人は長男を学校にやらせず「あほになる修業をしてこい」と丁稚奉公にだすのが習わしでした。我を捨てろ、商売の価値感^{チカラ}を磨いてこいということだったんだと思います。大学を

出ずに社会で仕事をしてきたものからみると、体験して覚えるということが現在は否定されているようで残念です。世界レベルで活躍する人材、あるいは経済に役立つ人材を育成する点に集中してしまつた。そういう人はもちろん必要ですが、地方でお寺やお宮さんの世話をしたり老親を介護しながら地方に骨を埋める人も、もう少し尊敬されるべきではないでしょうか。

三輪 いろんなところに「大切な人」はいますから、それを互いに理解できるように教育しないといけませんね。近江商人が長男を丁稚奉公にだす風習は、たぶん人と人とのコミュニケーションが非常に大切だということを伝えるためのシステムだったのでしよう。

森 たとえば会社で会議をしていると、ぱつと賢い発言をする若い社員がいる一方で黙っている若

手もいる。ところが数日経つと、黙っていた社員が議題について良い考えを提案してくることがあります。それがまた真実をついているんですよ。賢い人は経営学の本に載っているような論理的なことをいうのに対して、時間がかかる人は現場をみて自分で考えてくるんです。しかし、上に立つものもすぐ発言する人だけを評価する傾向にあつて……。就職活動でもそういうことがあるのではないかと思います。社会、企業の価値

観を変えていかないといけませんね。

染色体の組み合わせから 考えた価値観の多様性

森 ところで、湖北町の「どつぽ村」をご存知ですか？ 清水陽介さんという方が大工と農家を育てるために始められた、ちよつとおもしろい取り組みなんです。就職した人は3年間住みこみで冬は大工仕事、夏は農作業を



家族や地域の幸せを実現するためには・・・(森氏)

して、現場で働きながら体で仕事を覚えさせるのです。意外に女性も多いそうです。グローバル化社会での活躍に目を向けがちな男性に対して、家族や地域を含めた個人の幸せを考えて暮らそうという発想は女性の方があつたのかもしれません。これからは女性がじわつと



力をもってくるんじゃないでしょうか。

三輪 それはいい方向ですよ。

森 女性は必ずしも経済至上主義の発想だけではないのでしょうか。

三輪 そうです、価値の多様性を大切にしないでいいのです。人は一人一人みんな違うわけですよ。私が新人生に必ずいうのは、みんなそれぞれ違っていているから大切なんだということ。

その例としてあげるのが染色体で、人には46本の染色体があつて、半分の23本はお父さんから、あとの半分はお母さんからもらつています。お父さんはお祖父さんから半分、お祖母さんから半分もらつていて、母方も同じです。

そうした組み合わせを計算すると、一人の人間で70兆個の組み合わせがあることになります。だから、一人一人が70兆分の1。世界の人口は70億を超えました。一人として同じ人はいないのです。

一卵性双生児だけは別なんです、ただ一卵性双生児で染色体が同じであっても、環境によって良い遺伝子とか悪い遺伝子のスイッチがオンになった



70兆分の1の生命。生まれたことが奇跡かも知れない。

りオフになったりします。環境の影響を受けてある程度固定化する。だから一卵性双生児でも違うんですよ。

森 それは不思議ですねえ。

三輪 70兆分の1、一人一人はそんなにも希で大切な存在なんです。

森 生物ということは、地球上に存在するもの全部がそうなんですよね？

三輪 そうです。クローン人間は作ってはいけないのですが、たとえばクローン人間は理論的に一卵性双生児と同じです。しかし、クローン人間であっても環境の影響を受けるんですよ。だから非常に多様な価値観があって、いろいろるな人がそれぞれの持ち分を發揮することがすごく大切だと学生には話しています。

森 なるほど。

三輪 価値判断が一つだけになってしまふことがいかに間違っているか。多様な価値観をもっと尊重して、お互いにみんなが認め合える社会が良いのではないかと思えます。ところが、そうすると今度は宗教の問題が絡んでくる。日本ではこうした考え方は比較的受け



私たちの未来をさがす、長浜バイオ大学

入れやすいように感じますが、他の宗教は排他的なところがありますから、そうした宗教や価値観とどう折り合いをつけるかむずかしい問題です。でも、これからの人類のことを考えると平和共存していきたい、戦争はやりたくない。とすると、そうした価値観が産業や政治と折り合いをつけることができなくなってしまうでしょう。戦争の多くは経済的な理由によって起きると思うんですよ。それに対して、政治家や経済界の方々がいかに生命の価値とバランスをとるかです。

バイオの未来は？ 多彩なビジネスチャンス

森 次に、今後のビジネスについて先生のご意見をうかがいたいのですが、現在の工業化社会からバイオ系・生物系に変わっていくだろうという期待があつて、長浜でもバイオインキュベーションセンターやバイオビジネス創出研究会が発足しました。まだ大きなビジネスにつながっていませんが、農業系、あるい

はビワマスの養殖などいろいろできつつあります。バイオ産業の将来はどのようになるのでしょうか？

三輪 ビワマスに関してはさらにおいしくするためには、どういう飼料を使うと良いかの実験を、清水信義教授と河内浩行准教授が計画しています。まずは小さな装置で実験できるメダカでやって、うまくいけばビワマスに応用したい。また、この研究成果を逆に用いてさらにメダカの予防に応用しよう（笑）。おいしくするためにメダカをメタボにしようとしているわけですから。森 うまくいけば製薬会社が採用すると聞きました。滋賀バイオ産業推進機構では甘草という薬草を水耕栽培してみること検討されています。甘草は中国が輸出を抑えていて、日本の製薬会社が困っているそうですね。



三輪 そのように聞いています。森 薬草は遺伝子組み換えをやってもいいのでしょうか？

三輪 そうですね、もちろんいろんな規制はありますが、役に立つ薬ならぜひということになるのではないのでしょうか。他の大学では、タバコでニコチンが生成されるシステムを調べ、遺伝子改変により創薬に役立てようという研究がされています。身近にある天然物を使って実際に役に立つものを創り出す研究は、まだこれから大きく発展する分野です。森 滋賀ブランドを育てるため、企業でも薬草ビジネスを研究する会社を作ってもいいでしょうね。**三輪** 最初の研究がすぐに産業と結びつかなくても、他の方がそれに注目して研究して有用だとなると一気に産業

化の可能性が開けることもあります。

一例として、当学の太田伸二教授は以前、海綿構造決定から見出した物質が最近、他の研究者によってガンに効くとわかってきたのですよ。もうひとつ大事なことは、研究者が専門を超えてコミュニケーションをとること。その点、滋賀バイオ産業推進機構のようにさまざまな専門の人が意見交換する場は非常に大切だと思います。バイオはもともと学際的で、医学・農学・工学・薬学などいろいろな研究が混ざった学問ですから。

科学技術の前提として 生命倫理について考える

森 原子力もそうですが、科学技術が進歩してくると限界を設けなくてはいけないといわれていますが…。

三輪 初めに限界を作るのはむしろかしいので、いかに有用に使うかです。森 まさに倫理が必要なんです。三輪先生が講義なさっている生命倫理はそういうことですか？

三輪 私の講義は「命の大切さをどう考えるか」を基本にしています。尊厳死や安楽死、脳死と臓器移植をどう考えるか。自分が悪性の癌で余命3ヶ月しかないとしたら、いつどこで誰にそれを伝えるのか、3ヶ月をどう生きるのか、他の人にどうしてもらいたいかなど、話し合ってもらいます。

森 クロインの問題もありますよね。

三輪 はい。クロイン人間については作ってはいけないと多くの学生が答えます。しかし移植用の臓器を提供してもらえないからクロイン人間賛成という人もいますがね。でも逆の立場になつたらどんな風を感じるでしょう？ 命というものは大切なん

だ、われわれはいろんな命をいただいで生きているんだということを、まずは理解してもらいたい。科学技術とは直接関係ないかもしれませんが、もっと根源的なところを考えて欲しいという思いがあります。

森 たいへん興味深く、示唆に富んだお話をありがとうございました。



学と産が手を取り、自ら考える人財を育てる

自分に忠実に

三輪 正直

●みわ まさなお 1941年生まれ。東京大学医学部卒。国立がんセンター研究所ウイルス部長、副所長、筑波大学教授、同大学院医学研究科長、基礎医学系長、同人間総合科学研究科教授を歴任。筑波大学名誉教授。

＜専門分野＞ 動物病態学、分子腫瘍学、翻訳後修飾

＜職位＞ 学長、教授

＜学学位＞ 医学博士（東京大学）

勇氣源
心の壁を打ち破れ

森 建司

●もり けんじ 1936年生まれ。滋賀生まれ。

滋賀県立長浜北高校卒業。新江州（株）取締役会長。滋賀経済同友会特別幹事、滋賀経済産業協会相談役など

＜著書＞ 『吃音はなある』遊タイム出版、

『循環型社会入門』新風舎、『中小企業にしかできない持続可能型社会の企業経営』サンライズ出版。

寄稿

〈地域「ふるさとに生きる」—③〉



オイサデ網

琵琶湖という「ふるさと」 マザーレイクに想う


大沼 芳幸

滋賀県立安土城考古博物館 学芸課長兼副館長

東北大震災があった2011年3月11日からほどなく1年が経ようとしている。天災は原子力発電のもろさを私たちに知らしめた。今も被災地では復興に向けて、不断の努力が続けられている。日本という国土に住まう私たち、人ごとではない…。古から営々と続く暮らしの中に学ぶことがあるはずだ。考古学からみてみよう。



津波で流された男神像と女神像



「ふるさと」の定義はなかなか難しい。生まれたところ？ 育ったところ？ 今暮らしているところ？ 大好きなところ？ 何れにしても「ふるさと」とは人に語るに足る価値のある所をさすようである。言い換えるならば誇りを抱ける所であろう。そう考えると、近江人にとって、琵琶湖を「ふるさと」と呼ぶことに違和感はない。何故か？ それは、近江人が琵琶湖と先人が培ってきた悠久の歴史、そして、ここで紡ぎ出された多様な文化の中で暮らしているからである。

琵琶湖を雄大な自然として評価する場合が多い。それは間違っていない。しかし、琵琶湖の自然を見つめるとき、そこには必ず人の姿がある。湖岸を彩るヨシ原は、暮つしを支える道具を造る材料を生み出すところとして、大切に管理されてきた自然である。湖岸の松並木も、防風、魚付きのために植えられた。水面に目を移すとエリの光景、行き交う船。ここにも人の営みが見える。「行く春を近江の人と惜しみけり」松尾芭蕉の句にも、琵琶湖の水面が横たわる。



琵琶湖から離れたところに暮らす人達にとっても、琵琶湖は身近な存在である。祭りや祝いの席に登場するフナズシは、琵琶湖の恵みを凝縮した、聖なる食べ物として大切に味わった。何よりも、近江に降り注いだ雨のほとんどが琵琶湖に流れる。身近な川はすべて琵琶湖に繋がっている。古い時代、この川を通して琵琶湖から様々な物や情報もたらされ、琵琶湖の力は、そうとは意識されずに、生活の中に溶け込んでいった。

昔、三修上人（平安時代の修行僧）が湖西を歩いていると、湖東の山中に紫雲がたなびくのが見えた。驚き怪しんだ三修は、琵琶湖を飛び越え、かの地に至ると、紫雲は、清らかな池から立ち上っていた。三修はこの奇瑞を喜び祈ると、池の中より忽然と薬師如来が出現した。この薬師如来を祀ったのが、湖東三山の池寺（西明寺）である。以来、西明寺は水への祈り寺として崇敬を集める。この話は、まさしく琵琶湖の水と山の水とが親しい関係にあることを物語っている。いにしえの人達は、



① 塩津港遺跡と琵琶湖 ② 塩津港遺跡 神社本殿跡 ③ 針江浜遺跡 地震によって生じた亀裂 ④ 針江浜遺跡 地震による液状化現象断面 ⑤ 伊吹の正月料理フナ汁 ⑥ お正月のフナの煮付け ⑦ 近江の味覚フナズシ

琵琶湖を単なる湖とは見ていなかった。「近江の海はうみならず、天台薬師の池ぞかし(梁塵秘抄)」。

そもそも、1万年以上も前の歳月を人は琵琶湖と共に暮らしてきた。その永い歴史の延長上に現在があるわけであるから、近江人が琵琶湖に「ふるさと」を想つことも当然のことであろう。

2011年3月11日、日本は未曾有の大災害に見舞われた。そして、想いとは別に、「ふるさと」を離れて住まわざるを得ない多くの人達がいる。琵琶湖もまた、優しいだけではない。琵琶湖周辺で行われた発掘調査により、湖岸を襲った地震の様子が次々と明らかになってきた。高島市今津町北仰西街道遺跡から、縄文時代の村を地震が襲った跡が見つかった。地震は大地を

引き裂き、縄文人の生活を壊していった。しかし、程なく人々は同じ場所で再び豊かな暮らしを展開しはじめた。

高島市針江浜遺跡からは、弥生時代の地震の跡が見つかった。この地震は、湖岸の村に大きな爪痕を残したばかりでなく、琵琶湖自身の水位の変化ももたらした。その結果、湖岸に営まれていた村は琵琶湖の底に沈んでしまった。しかし、程なく、湖岸からやや離れた微高地にあらたな村が造られ、生活は継承された。

文治元年（1185）琵琶湖の北を津波が襲った。あの紫式部の歌にも登場する塩津の地にあった神社が、琵琶湖の巨大な力になぎ倒された状態で発掘されたのである。この地震を境に、周囲が水没した様子も調査により判明した。しかし、神社の祭りはこの津波により途絶えることはなく、場所を換え、現代まで続けられている。塩津神社がそれである。

天正一三年（1585）長浜の街を地震が襲った。この地震により長浜城が倒壊し、城主山内一豊の姫が庄死した。

しかし、長浜の街は見事に復興し、現在の長浜に繋がっていることは語るまでもない。

数々の困難を乗り越えながらも、近江の人達は逃げることなく、その生活を継いできた様子を、災害の考古学が教えてくれる。この原動力はいったい何だったのだろうか？ その大きな要因に琵琶湖の力があつたように思える。津波、水位の上昇いずれも自然（琵琶湖）がもたらした災厄ではある。しかし、それ以上の恵みを琵琶湖は与えてくれる。その恵みは形有るもの、そして形なきものとして人々を抱く。この感覚が「マザーレイク」なのだろう。母のように大きな琵琶湖こそ、近江人にとつての「ふるさと」なのだ。従つて、他府県の間人にとつて「マザーレイク」は実感のない言葉である。現状で、マザーレイクを普遍的な滋賀のブランド標語とすることは時期尚早な気がする。

しかし琵琶湖は、近江人だけではない、人類の宝としての価値を内包している。二万年もの長い間人間と共生し、

さらに、この共生関係を未来に継承することを義務づけられている自然は、世界的に見ても極めて希である。琵琶湖は、人類の未来を考える上でかけがえない宝なのである。この「ふるさと」の価値を世界に向けて発信することは、現代の近江人に課せられた大きな使命である。そして、この価値に世界が共鳴したとき、琵琶湖は世界の「マザーレイク」となる。

*琵琶湖周辺の地震災害については、滋賀県立安土城考古博物館で3月11日よりテーマ展として展示予定。

はんくるないたの
大沼芳幸

●おおぬま よしゆき 1954年山形県新庄市に生まれる。財団法人滋賀県文化財保護協会・滋賀県教育委員会等を経て、現在滋賀県立安土城考古博物館学芸課長兼副館長。専門は、琵琶湖文化史。

現代社会で自分らしく生きるため 新たな地に根ざす人々の姿を追って



田代陽子

映画監督

いまの時代をどう生きていくのか？

2008年ドキュメンタリー映画『空想の森』を完成させ、監督としてデビューした田代陽子さん。北海道の農場で働く人々の日常を淡々と追った映画は、土とともに素朴に生きる素晴らしさを伝える秀作として注目を集め、滋賀でも各地で自主上映会が開かれています。“新たな故郷”で自分らしい生き方をみつけた家族の姿を撮りながら、全国でインタビューを続けている田代さんに、新作について、そして滋賀についてお話をうかがいました。

- 北ピワコホテル グラツィエ
- 2011年12月18日
- 聞き手／辻村琴美



空想の森パンフレット

**映画『空想の森』の旅をして
人と人のつながりで滋賀へ**

以前、大津でお会いしたとき、気になる地域として群馬と滋賀をあげられていましたが、どうして滋賀に関心を持たれたのですか？

田代 現在、2008年に完成させたドキュメンタリー映画『空想の森』の上映会をしながら全国を旅しています。特に滋賀は自主上映の回数が一番多い県なんです。それまで滋賀についてほとんど知りませんでした。

—— まったく縁がなかった滋賀で、何度も自主上映会が開催されるようになったのは、どういった経緯で？

田代 最初に、名古屋から余

呉に移住して農業をしている前田壮一郎さんが、余呉で『空想の森』の上映会を企画してくれたんですね。それを見た高島の原田将さんが「ブルーベリーフィールズ紀伊国屋」代表の岩田康子さんを紹介してくれたご縁で、大津の成安造形大学のカフェテリア「結」で上映会を開くことができました。そこへ彦根からみにきてくれていた奥田好香さんが、彦根での上映会を企画。さらに奥田さんたち彦根の方々の働きかけで、滋賀会館でも上映してもらったんですね。すると、雑誌「婦人之友」愛読者の集まりである「大津友の会」の藤重利子さんがそれをみにきていて、藤重さんたちがまた上映会をやってくれて……。滋賀は、なぜか『空想の森』の世界に共鳴してくれる人がほんとうに多くて、不思議なほどずっと人と人をつながって上映してきました。

—— 上映会のたびに人の輪がどんどん広がっていくのはすごいですね！

田代 上映に来るときは上映実行委員の方の家に泊めてもらって、その人とずっと一緒に過ごして、いろんな話を



する。そういう時間が、私の映画にとつてはとても大切なんです。

琵琶湖をみて暮らしている 滋賀県人の意識の高さ、

—— 滋賀についてどう感じておられますか？

田代 自分の県が大好きという人が多くて、それはほんとうにすばらしいことですよ。そして、みんなの心の中に琵琶湖がある。食べ物や暮らしに對する意識が他の県より高いのは、水のきれいな琵琶湖を次の世代に残したいという気持ちがとても強いからだと思います。

もうひとつ印象的なのは、同じ滋賀県といっても東と西、北と南では風土も文化もずいぶん違いがあつてバラエティに富んでいること。いま自分がいる場所で独自の暮らし方にチャレンジしている人がたくさんいることがおもしろいですね。たとえば高島の取り組み、あるいは「ブルーベリーフィールズ」の岩田さんたち、能登川の「ファブ

リカ村」の北川さんたち。まだ行ったことはないんですけど、湖北の上山田には「どっぽ村」がある。それぞれの形でがんばっている人が滋賀にはたくさんいて、互いにゆるやかにつながっている。すごく理想的に思えます。

—— 確かに、滋賀には独自の活動をしている方がおおいわれます。

田代 いまは「グローバルズムがいい」「なんでもグローバルで同じ価値観をもつことがいい」という風潮ですけど、そんなつまらないことはないと思つています。小さなコミュニティには、それぞれその土地の気候風土に合った暮らし方があつて、コミュニティの中で循環することができたら、それほど豊かなことはないと思うんですよ。滋賀県はそうした方向に向かっているんじゃないでしょうか。

震災をまのあたりにして いま自分にできることを問う

—— いまはどのような映画を撮つておられるのですか？

田代 3・11（東日本震災）に衝撃を受けて、自分にとって世界が変わってしまったと感じました。映画なんかやっている場合なのかと。でも、自分でできるのは映画しかない。それでは何を撮るのか？ 3・11を人はどんな風感じて何を考え、どのような未来をみいだそうとしているのかを聞いて歩いて記録することからとにかく始めようと考えました。「いまの時代をどう生きていくのか？」を描きたいと思つています。

—— どういう人にインタビューしているのですか？

田代 『空想の森』に出演された方や上映会をしてくれた方、みてくれた方を全国に訪ね歩いて、すでに100人ぐらいの人に話を聞きました。その中でぶち当たったのが大間原発の問題。

—— 大間原発の問題という？

田代 青森の下半島の北端にある大間町では、いまも原子力発電所が建設中なんです。津軽海峡を隔てて20kmほどしか離れていない函館の人が中心になって、大間原発建設の反対運動が進



1



3



2

① 愛くるしいヤギ ② 山田圭介夫妻の仕事場 ③ 本格的に美味なチーズ

められていて、裁判中なんです。

——なぜ大間原発なんですか？

田代 きっかけは『空想の森』に出演してくれた山田圭介・あゆみ夫妻でした。映画完成後に山田さんが新得共働学舎から独立して道南に開いた農場は、彼自らが山を切り開いて家も畜舎もチーズ工房も建てて5年目。土地の味を出すために自分の農場の草だけをヤギに食べさせてチーズを作っています。大間原発で事故が起これば風向きでは20分くらいでプルトニウムが飛んでくる場所なので、自分たちの農場を守るため、小さな子ども3人のためにも、震災前から原発建設に反対していました。

原発についていろいろ調べて勉強してみても、私自身にも責任があったと気づきました。原発をやめて欲しいと思っていても具体的に何もしようと思わなかったのは容認したのと同じこと。原発は嫌だときちんと表現していこうと考えて、私も裁判の原告になりました。

自分の物差しをもって 生きている豊かさ

—— 新作は原発問題が中心ですか？

田代 「空想の森」に関わってくれた人たちにインタビュー撮影をしました。大間原発の問題も重要ですが、この時代をどう生きるかがテーマになります。「山田牧場」と「ラムヤート」。彼らの暮らしがこれからの日本のひとつの指針になるのではないかと思っています。お金はないけど食べものがほんとうに豊かで子どもがのびのび育っている。こんな暮らしもあるんだ、こんな風にも生きていけるんだということを映画を通して伝えたいです。

山田農場はほんとうにいい暮らしをしているんですよ！ 家畜の乳でチーズを作って売ることを基本に、小さな畑で自分たちが食べる野菜を作って、自家用の肉にするための家畜も飼って、山で山菜やキノコ、自然薯を採って。手絞りでバケツにミルクを絞る音だけが響く静寂の中、夫婦がその日の予定や出来事、家畜の様子とか何気ない会

話をしながら働いているんです。動物や自然とともに日々暮らしていると、自然に対する恐れや感謝が自ずと芽生えてくる。まっとうな暮らしだなと山田農場をみてつくづく感じます。

—— 洞爺湖のパン屋さんには？

田代 「ラムヤート」はすごくセンスのいい素敵なパン屋さんなんです。この店をやっている今野満寿喜さんはずっと札幌の人で、たまたま通りかかった洞爺湖を気に入って、仕事も何も決めずに洞爺に移り住んできたんです。馬具屋さんだった古いぼろぼろの建物を自分で改装して、ドイツでパンの修業をした弟を呼び寄せてパン屋を始めました。おいしいパンだけでなく、店には洞爺湖に落ちていたものや、解体する家からもらってきたものをきれいに磨いて売っていて。洞爺の古いものをうまく使っていて、とにかくセンスがいいんですよ！

そんな彼の店をみて、町の人たちから店舗の内装やプロデュースの依頼がくるようになりました。ミニコンサートや青空市といったイベントも企画して、

とにかく洞爺をおもしろい町として活性化させることを目指して活動している。彼の活動に刺激されて移住してくる人もいるくらいです。

人生を 自分らしく生きる幸せ

—— ところで、田代監督は東京出身ですよ？

田代 東京生まれで川崎で育ちました。東京のベッドタウンでつまらないところでした、私にとっては。だから、まったく逆の方に魅力を感じるんだと思います。もちろん、自分が生まれ育った町が大好きで、そこで生き生きと暮らしているのが一番幸せなこと。ただ私は自分の場合は生まれ育った町が好きではなくて……帯広に移住しました。撮影させてもらっている二家族とも自分生まれ育ったのではない場所を気に入って住み着き、そこをさらに住みいいところにしていこうとしている。だからこそ、彼らの生き方にひきつけられたのだと思います。

〈ふるさとに生きる－④〉



①この看板が目印 ②多くはいらない、少なく小さなものを膨らませて生きる＝パン ③今野満寿喜さん ④素朴でオシャレな店

こういう生き方もありなんだ、みんな同じ生き方でないといけないなんてことはないんだと、私の映画をみた人が思ってくればうれいしです。人生を自分らしくどう生きていくのか、やりたいことを自分らしくできることが一番幸せな生き方なんじゃないかと考えながら映画を撮っています。

—— 田代監督の映画とお話で、自然とともに暮らせればお金がなくても生きていける現実を知り、四季のある日本の風土に住んでいる素晴らしさを改めて感じました。

田代 現代の暮らしは日本の自然や気候風土から切り離されてしまった。切り離されたところで暮らしているから、人間環境もおかしなことになっているのではないのでしょうか。

—— 「MOH通信」の森建司代表は、「もったいない、おかげさま、ほどほどに」と循環型社会、

つまり昔の暮らし方に
少しずつ戻っていくこ
とも必要だと8年前か
ら提唱しています。

田代 原発事故による
放射能問題を抱える日
本では、生きるうえで
何が本当に大事なのか
を突きつけられている
と思います。

—— 映画の完成はい
つ頃に？

田代 まだわからない
ですが、前作よりは早
く完成させたいです。
前回は7年近くかかり
ましたから(笑)。

—— 田代監督が次は
どんな世界観を私たち
にみせてくれるのか、
映画の完成がいまから
楽しみです。ありがと
うございました。



琵琶湖を田代監督なら、どう撮るだろうか？

田代陽子 映画は希望を描きたい 2011.12.8

●たしろ ようこ 東京都生まれ、神奈川県川崎市育ち。1993年に帯広に移住し、出版社に勤める。1996年、北海道新得町で開催された第一回新得空想の森映画祭でみたドキュメンタリー映画に強くひかれ、映画祭を主催している藤本幸久監督と出会う。藤本監督の映画制作スタッフとなる。2002年春から撮影を始め、2008年に完成させた初監督作品『空想の森』とともに全国を旅している。現在は構想中の次作を撮影中。

●ドキュメンタリー映画『空想の森』の上
映予定などの最新情報、田代陽子さんの
活動についてはホームページに掲載
<http://www.soramori.net/>

寄稿

く地域「ふるさとに生きる」— ⑤ —



船がないので協働で漁に出る

南三陸 田の浦漁港物語

写真・文

鵜飼 修

滋賀県立大学 准教授

「自分の船が沈む瞬間を見た。思わず手を合わせた」。
3.11の津波は高さ10mを超え、集落の半数の家と100艘あった漁船のほとんどをのみ込んでいった。残された漁船はわずか数艘。「海からもらったものが海に帰っていった。またゼロからのスタートっさ」。想像を超えた被害を受けてもなお、前を向こうとする漁師のみなさん。海と人との「つながり」を継承する人たち。そんな人たちに心打たれて復興まちづくりの支援が始まった。



1

1 津波で防波堤も破壊された

『縁あって』

3・11。滋賀県立大学の研究棟も大きく揺れました。舟に乗ったような長周期のゆったり大きい揺れだったことを記憶しています。その後のニュースの映像は目を覆いたくなるものでした。仙台に3年半居住し、被災前の三陸の町の情景は知っていましたのでなおさらです。それらが破壊される様には涙が溢れました。自分は何をすべきなのか? 「まちづくり」の専門家、活動家として何ができるのか。繰り返し返される映像をみながら悩みました。

震災の4ヶ月後に、学生達の活動に促されて、宮城県南三陸町歌津の「田の浦」という集落へかかわる機会を得ました。100世帯400人ほどの集落で、現在私が住んでいる下石寺集落とほぼ同じ規模なので縁があったのだと思います。田の浦の集落は、ほとんどの世帯が漁協に所属し、漁業が地域の主要な生業です。3・11の津波は、集落の約半数の家と14名の尊い命を奪いました。3名は未だ行方不明といえます。



2



3



4



② 田の浦の入江:80cmほど地盤沈下したため満潮時には冠水してしまう ③ 海から引き揚げられたもの ④ 津波で破壊された作業場と学生達によりつくられた番屋

7月、現地に入り、まずは人々の思いに耳を傾けました。海と共に生きてきた人々の海への思いを聴くことができました。「海からもらったものが海に帰っていった。またゼロからのスタートっさ」。残された漁船を共同で利用し漁に出る人々は、この土地での生業・生活を継承すべく前を向いています。

田の浦は南三陸町の歌津よりさらに20分ほど北に移動した、気仙沼市との境界に位置しています。周辺と比べても比較的大きな天然の入江が、漁港としてコンクリート護岸で整備されています。

かつては魚を獲る漁が中心で収入が不安定であったようですが、ワカメの養殖がはじまり、ホヤ、ホタテへと展開し、出稼ぎをせずとも漁業を継続し暮らしが成り立つようになったといえます。入江の形状から養殖には適地なのでしょう。

漁は夜明け前の「アサマ」に行くそうです。日が昇り海水の温度が上がると風が吹き波が立つからです。風の方向にも敏感で、南からの風が吹いているときは海が荒れるので漁には出ないと

いいです。風向きで1日の活動が変化する、海と共にある生活です。

震災後2ヶ月間、田の浦の集落への支援活動は炊き出しが1回あっただけだったそうです。そうしたときにNPO法人環人ネットの田中光一氏と気仙沼の有志の仲介で、滋賀県立大学の学生有志グループ「近江楽座：天木興プロジェクト」による支援活動がはじまりました。

木興プロジェクトの学生達は、宮城大学の竹内泰准教授が5月の連休に志津川で実施した番屋プロジェクトに参加したことを契機に、自分たちでの支援活動場所を模索していました。田中氏らの仲介で、田の浦をフィールドとすることができた学生達は、屋根と壁が破壊され鉄骨の骨組みだけが残された漁港の作業場に漁師達の休憩・作業所（番屋）を設計、建設しました。8月盆休みのことです。

しかし、番屋をつくって「ありがとう」「そむつなぐり」では「まちづくり」にはなりません。未来へ向けてのまちづくりとしての支援活動は何ができる

のか。学生達の取り組みをみながら考えました。そして現地で人々とふれあう中でわかったことは、現地の人々が「つなぐり」へ感謝しているということでした。それは、津波をもたらした海とのつながりへの感謝でもあり、私たちなどの外とのつながりに対する感謝でもありました。そうしたつながりをあらためて見直し、デザインし直す（リ・デザイン）することが、まちづくりの方向性なのであるということに気が付きました。

『田の浦ファンクラブ』

8月の学生達の活動期間に、山形蓮さん（滋賀県立大学院生／NPO法人環人ネット）を中心とした聞き書き作業を行いました。その時収集した情報をもとに、9月に再度訪問し、現地の皆さんに滋賀県立大学や環人ネットを含めた「外とのつながり」の形成を担う組織の提案を行いました。そして、この提案は番屋建設で窓口となった養殖組合が中心となって、契約会（自治

会）と連携しつつ対応することで合意されました。女性陣にも参加を呼びかけたところ女子グループ「田の浦美人倶楽部」も結成されました。10月には、「田の浦ファンクラブ」の設立総会を開催し、任意団体が設立されました。

田の浦ファンクラブの活動目的は「この団体は、南三陸町歌津地区田の浦において、東日本大震災で被災した地域の再生、コミュニティの再生、生業の再生等まちづくりの推進を目指し、田の浦の歴史、生活文化、生業、自然環境、人財などの地域資源を活かし、つながりを創造し、地域の未来を育むこと」としました。

活動としては、①まちづくり支援事業、②交流事業、③自然共生事業、④地域特産品販売事業の4つを設定し、将来的には、特産品販売や田の浦の魅力を体感する漁船クルーズやグルメツアー、婚活活動などを展開することを目指すこととしました。しかしながら当面の活動としては、浜で作業していた女性の集う場、働く場を形成するための「ミニニティ・ビジネスを实践する

「田の浦ファンクラブ」への直接支援

〈復興支援商品〉ネットショップ <http://e-tanoura.shop-pro.jp/>



仮設住宅の作業場でエコキャンドルの製造方法を説明

3.11に東北を想う。 エコキャンドル「田の浦はたてあかり」

5個セット 2,500円(送料別)

お寺から回収した和ろうそくの残ロウと、田の浦で余っていたホタテの貝殻を使ったエコキャンドル。



聞き書き集

「田の浦の漁師が伝える海と人との暮らしがた」

義援金として5,000円

田の浦集落の海とともに育まれた生活文化について聞き書き調査し取りまとめた冊子です。

- 体裁：A4ヨコ 32ページ カラー
- 著作：山形蓮（滋賀県立大学人間文化学研究所）



聞き書き集

「3.11 Tanoura 今語られるあの日のこと」

賛助会員会費として3,000円

震災後半年に田の浦集落の住民に実施した聞き書きを取りまとめました。

- 体裁：A5サイズ 32ページ 一部カラー
- 著作：山形蓮（滋賀県立大学人間文化学研究所）

詳しくはホームページをご覧ください <http://e-tanoura.com>

田の浦ファンクラブ

〒988-0411 宮城県本吉郡南三陸町歌津田茂川267番地 田茂川仮設1-1

理事長 佐藤久次

お問い合わせ：滋賀サポートチーム 山形蓮 090-4279-6814



番屋竣工式の模様：漁師と学生の絆が生まれた

こととしました。現在では、前述の聞き書き集を義援金付、賛助会員権利付で販売するとともに、学生達の提案から、お寺での残口ウと田の浦のホタテの貝殻をコラボレーションしたエコキャンドル「田の浦ほたてあかり」を開発し、製造・販売を手がけています。

『地域のファンになるうー!』

地域のファンになる。自分の住む地域のファンになる。どこでもよいと思います。第2、第3のふるさとと呼べるような地域とのつながりを持つことが、地域の活性化、東北においては本当の地域の復

興につながるのだと思います。たくさんの人々と顔の見える関係でつながる、それが豊かだと思える社会になってほしいと思います。

田の浦ファンクラブはみなさんと直接つながる仕組みです。多くの方々が、田の浦で頑張る人々、田の浦の海と共に生きる人々、そしてその未来づくりのファンになっていただければうれしく思います。

つなからむデザイン 教訓

●うかい おさむ 東京都大田区生まれ。彦根市下石寺と東京都大田区2地域居住。2006年滋賀県立大学大学院に設置されたまちづくりの担い手「コミュニティ・アーキテクト」育成プログラム「近江環地域再生学座」を担当。滋賀県内、大田区大森、福岡県大牟田など各地でまちづくり活動を実践。著書に「地域診断法」新評論（共著）、「小舟木工村ものがたり」サンライズ出版（共著）、「3日でマスターできる「コミュニティ・ビジネス起業マニュアル」ぎょうせい（共著）、など。

春の木

三山 元暎



さし絵:中川 善雄

雪深い湖北に暮らしていると、春の訪れは格別である。いつも初めて味わうような胸のときめきを感じる。椿は、日本を代表する春の花の一つだ。いち早く未だ寒いうちから咲きます。花期はすいぶん長く、一月中

ごろから咲き始め、桜の散った後、五月中ごろまで咲いている。

古代、椿は春を言触れる花木として重要な意味を持っていたという。その辺りは折口信夫さんの「花の話」に詳しい。春になると山姥が、椿の杖をついて里に下り、

春がやってきたことを告げ歩いたという。

わが在所、三島池のほとりにあるお宮さんの石段を上りつめたところに、ヤブツバキの老木がある。いまの季節、光沢ある厚い葉の間から、真っ赤な花を咲かせている。

雪の椿からりと筆を

置く音す 水田

春の雪を被って咲くさまは、凜としたとえようもなく美しい。散った花が幹の辺りを紅色に染めている。

一ひらひらと散るのでなく、春の命がみなぎりはじめた大地へ、花全体がぼとりと落ちる。

いまでも暇に焼き付いているのが、十数年前、雪が残る福井県境に近い山奥で見かけたユキバツバキの品のある美しさ。道なき急斜面をよじ登り崖根に生るい

雪に耐え雪をはねのけた枝に、鮮やかな黄色の花糸を付けた赤色の花を水平に広げて咲かせていた。この傍らには、春の妖精と呼びたくなるような淡いピンクの可憐な花、雪割草が咲いていた。

今年もまた、ユキツバキの南限地であるこの県境の村へ桜前線が訪れるころ、探椿に出かけてみますか。

三山元暎

●みやま もとあき 1940年滋賀県坂田郡山東町(現・米原市)生まれ。長浜市の理事・経済部長を経て1999年8月から2005年2月まで山東町長。同月14日米原市誕生にともない退任。真宗大谷派真勝寺前住職。

●なかがわ よしお 1936年生まれ。滋賀県展・長浜市展、伊吹を描く絵画展など入賞。入選歴多数あり。税理士。



みなさんで話し合いました(第4回)

未来を語り合おう

滋賀未来戦略サロン活動報告

川内 愛子

NPO法人環人ネット

日頃「こんな風になったらいいのに」とか、「これはへんだよなあ」とか思うことはありませんか？今回は滋賀県企画調整課が、粋な取組みをしてくれました。肩書きの必要がない話し合いの場を作ろうよ、というものです。～さんと呼び交わし、自由に意見を述べ合い、先進地域を見て学習しようというものです。そのファシリテーターに挑戦した新人が皆様にご報告します。

滋賀の未来、私の未来

未来について、友人や同僚、家族の方々と語り合ったことはありませんか？その未来はどんな未来ですか？

滋賀県では、昨年の2011年に滋賀県主催の未来戦略サロンが開催され、集まって未来への思いを語り合いました。私も、その一人です。

未来戦略サロン(以下「サロン」とは、滋賀県の基本構想に描く将来の姿を素材として、気軽に、楽しく、話し合える場として、2011年に新しく開設されたものです。いろいろな立場の参加者が、肩書きを外した一個人として参加して、将来の姿のために自分たちは何をすればいいのかを共有することを目指して行われました。また、サロンでの議論をふまえ、県が実現に向けた施策・事業化を検討するという県民の意見を取り入れる仕組みの導入に向けた滋賀県の新たな試みでもありました。サロンの主催である滋賀県企画調整課の方々の試みは、進行ファシリテーターを私が所属するNPO法人環人ネット(以下「環人

開催された未来戦略サロンのプログラム

●第1回(7/28)立ち上げ

滋賀県基本構想に即した4つのテーマ(たくましく活力に満ちた滋賀、安全安心な滋賀、人と自然がつながる美しい滋賀、安全楽しく暮らせる滋賀)に分かれ自由に意見交換を行った。

●第2回(9/1)意見交換

参加者各人が出した2030年の滋賀の姿より4つのグループ(産業・仕事、コンパクトシティ・都会と田舎・暮らし、コミュニティ、環境共生)に分かれ、実現するにはどうすればよいか議論した。

●第3回(10/2)現地視察

第2回の議論から候補が挙がった農事組合法人近江飯ファーム(米原市)と菜の花館(東近江市)を視察、意見交換を行った。菜の花館では東近江ハンドシェーク協議会・緑の分権改革・NPO法人愛のまちエコ倶楽部・NPO法人結の家・交通政策課(コミュニティバスの取組み)のみなさんから事例紹介を伺い、意見交換を行った。

●第4回(11/1)まとめ

1~3回の意見を滋賀びわ湖マンダラにまとめ、環人ネットより提言を発表、それに対して修正点を出し合った。

●第5回(12/20)ふりかえり会

第4回までの議論を終え、嘉田知事を交えての“ふりかえり会”が開催された。4回に渡る議論の中から生まれた疑問や、これからの希望について意見を深めた。

意見交換

サロンに集まった参加者のみなさんは、滋賀びわ湖マンダラにある4つの

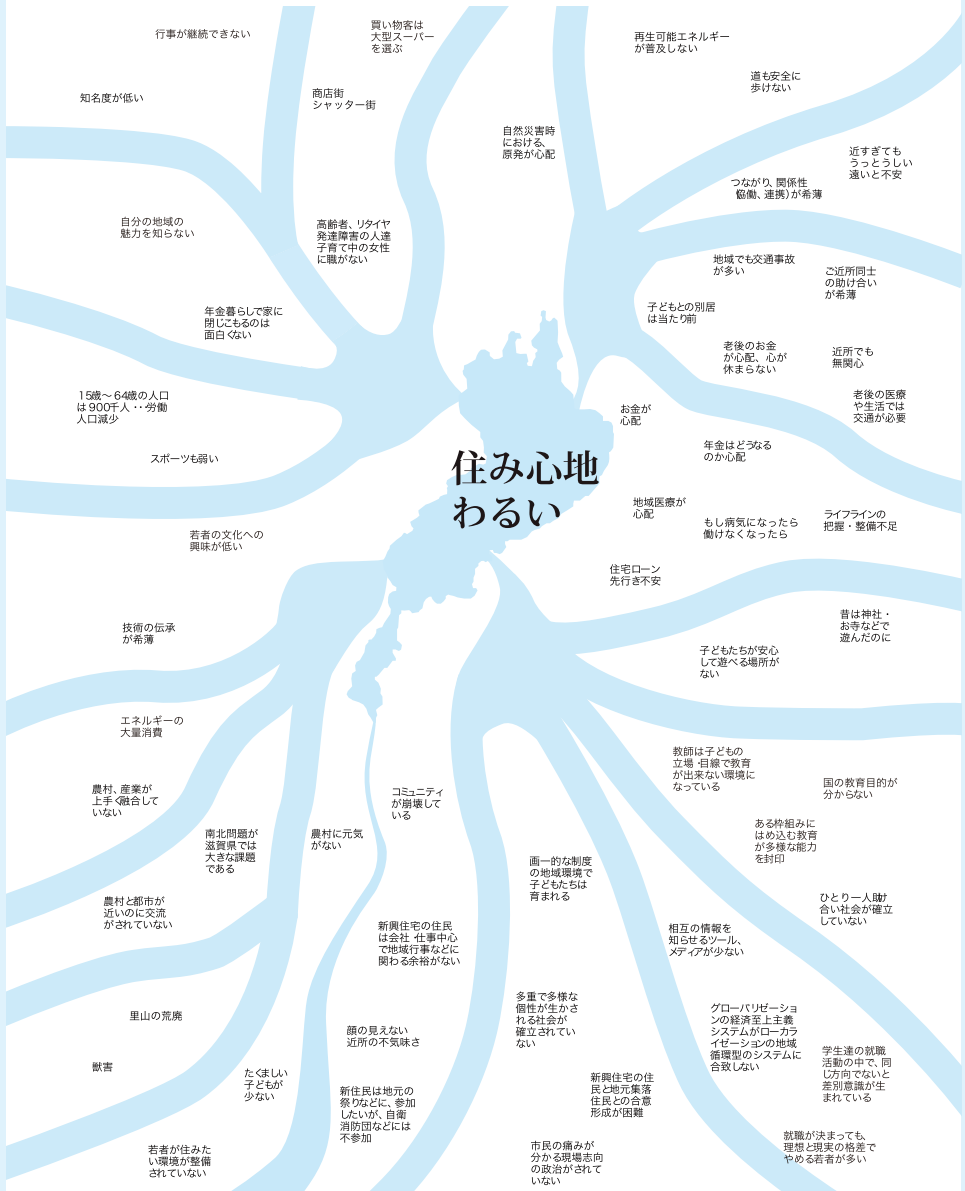
住み心地日本一をめざして

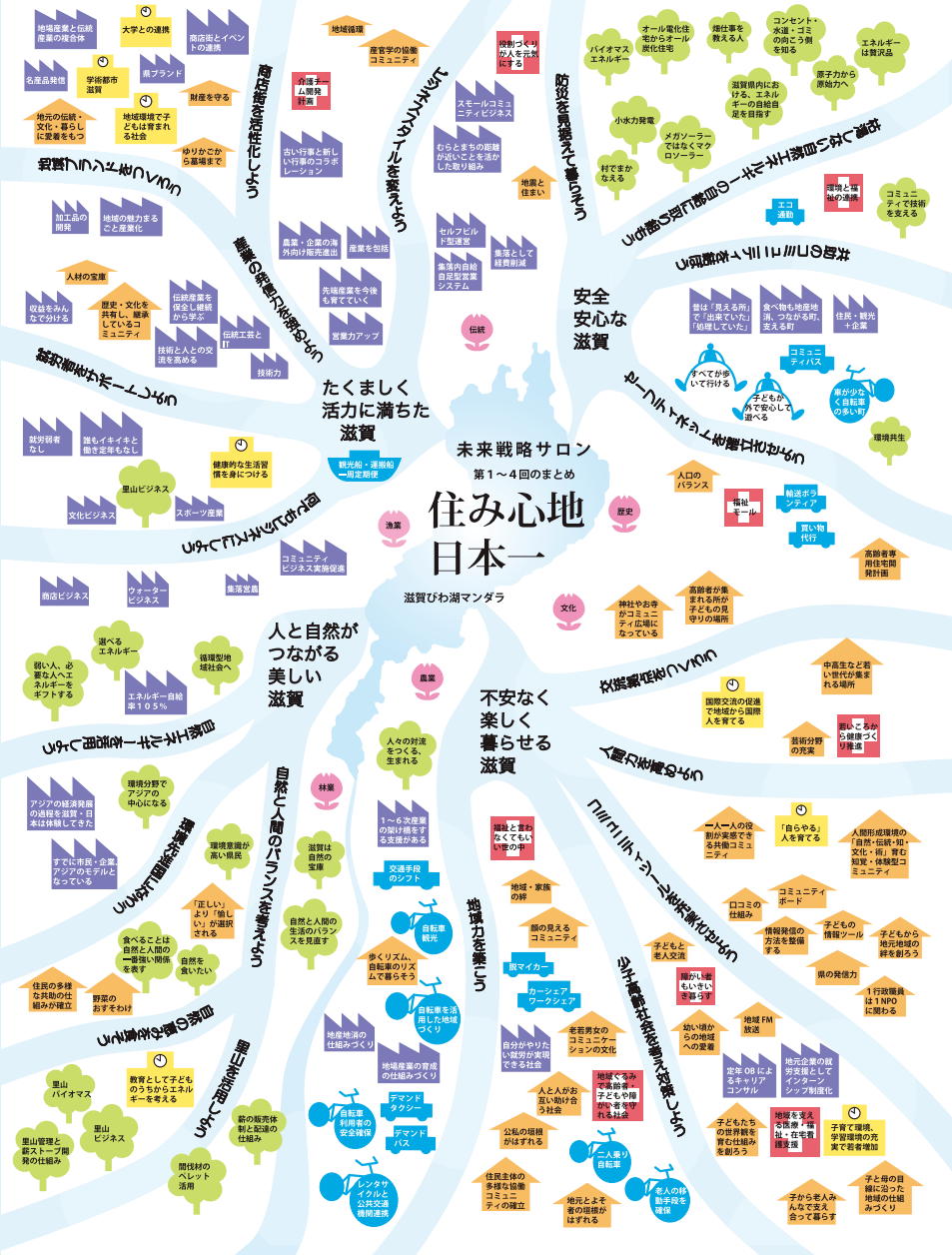
『滋賀びわ湖マンダラ』

琵琶湖に注ぐ川は私たちがそれぞれの役割、取り組み。琵琶湖から流れ出す川は発信。良い取り組みをすればきれいな(住みやすい)琵琶湖になる。水は繋がっている、地域も、人と人も繋がっている。

未来戦略サロン 住み心地日本一滋賀びわ湖マンダラの考え方

- ・「住み心地日本一滋賀びわ湖マンダラ」は、参加者の発言が1つ1つのアイコンになっています。
- ・アイコンの大きさはアイデアの重要さに関係ありません。
- ・琵琶湖・川には上流・下流の意味はありません。地図的な意味を含まない図としてご覧ください。
- ・アイデアのつぼみは、今回のサロンではあまり深められなかったものの、住み心地日本一の滋賀を実現するために重要な項目を示しています。







嘉田知事を迎えた、振り返りの会

主流と同じ4つのテーマにま
んべんなく分かれ、活発な意
見交換を行いました。第1〜
3回で、暮らし・産業(仕事・
経済)・自然・交通・教育・福
祉の6つの分野の143個に
上る意見が出されました。共
感しあえる仲間に出会えた、
いろんな年代や仕事の方から
新しい考えをもらったと感想
がありました。これらの意見
から滋賀県民の意識をまとめ
ようとすると、住み心地には
少子高齢化に向けてコミュニ
ティを豊かにするための医・
食・農・文・健の産業化を確
立すること、自然と共生しな
がら自然を有効活用すること、
そして縦割りの壁をなくし長
期的な視野が必要だとするで
しょう。しかし、これでは一般
論と同じでサロンらしさがな
くなると私は思いました。ス
タッフ間でも、まとめても、一
つの意見の持つ背景が違

うので、全体のまとめにはならないと話
し合いました。今回の運営にあたって大
事にしたことは一人一人の声でした。そ
うして、まとめ方の工夫を考え、滋賀
にしかない、つながりを象徴する琵琶
湖を表そうと案が出て住み心地日本一滋
賀びわ湖マンダラとなりました。全ての
意見をマンダラのアイコンの上のせ
ました。知事はそれぞれ一つ一つの意見を
見て、既存の価値観に囚われないこれ
からの社会をつくっていくために必要
な視点が生きていて、行政の中でも重
要な要素が詰まっていると評価して下さ
いました。

 県政が暮らしに
反映されることを願って

結果として、今回のサロンからの提言
はありません。最後の参加者からの感想
には、サロンは到達地点がよく分からな
かった、話を深めたかった、サロンを継
続してほしいという意見が大多数でし
た。今回できたことは、未来を意識する
人と出会うこと、発言することだけに終
わってしまったかもしれません。しかし



いろいろな意見が出ました

その結果は、それぞれに抱いていた「連つ未来」が、一つの「よい未来をつくりたいという未来」にまとまったという大切な成果なのではないでしょうか。語り合う、関わり合うことから、仲間による気をもらい未来がはじまるのだと実感しました。ある参加者の方は、自由闊達な議論の場として保障されている未来戦略サロンは素晴らしいという感想を出されました。私も、サロンの根本を振り返ると、県政が県民の暮らしが県民の暮らしに向いていることを実感し、県も県民もいろいろな意見を共有できたことは、滋賀県が住み心地日本一へ一歩前に出たことだと思えます。意見の出しっぱなしだけにはならないように、参加者と主催者全員で確認し合いました。これは、県政に興味をもつきっかけになります。

小さくても自分から

私は、サロンに参加する時、参加すれば自分の住む暮らしがよくなると思いました。しかし、参加して、マンダラを作ったことは、一つの提言をつくること、行うことはとても大変だけれども、小さくても自分で始めることが、周囲や全体に必ず伝わる、変わるということなんです。マンダラには完成はありません。余白に他の人の意見が増えていきます。アイデアのつぼみも増えていきます。

地球と人が喜ぶ思いをカタチにしていきたい。

川内愛子

●かわち あいこ 1981年、福岡生まれ。三育学院短期大学看護学科を卒業し看護師で就職後、滋賀県立大学環境科学部環境建築デザイン学科に編入、同学科博士前期課程修了。現在、クリニックのパート勤務と地域活動をしている。NPO法人環人ネット所属、琵琶湖のほとりの空家にシェアハウス暮らし。



20年に1度の故郷の宮さん本殿建替え行事、次回は2030年…

地域に恋して

写真・文

北井 香

NPO法人木野環境

地域活動に奔走する人がいた。とても細やかに熱心に、どこへでも飛んでいく。困ったことがあれば相談に乗り、快く協力する。なぜなんだろう？と不思議だった。彼女は地元が好きで、人が好き、食べることや飲むことはもっと好き。楽しいこうという楽道家(?)。人は誰でも自分の好きなことを職業にしたいもの。自分の好きなことを職業にしている北井さんの動機を探ってみよう。

● 私の気持ち

「地」の民「の根性」と、むら「の生き残る道を考える」これは、大学生時代からの私のテーマだ。

「地の民」とは、地域に根ざし、どちらかと言つと小さい共同体の中での暮らしを培う人々を表わす言葉で、主体的に社会への働きかけを行う自立的市民を表わす「市の民」と対比して使われる。

このテーマに、2〜3世代のうちに大きく変化した地域社会の中で、様々な課題に晒されながらも、その地で生きる人々の強さを思う気持ちと、どうしたら地域が活気づき、そこに暮らす人が地元で自信を持つことができるのか、という思いを込めて、模索が続いている。

● なれそめ

私の故郷は奈良県東北部の高原地帯に位置する山添村という農山村だ。西に接する奈良市との合併は住民投票で「反対」となり、現在人口約4100人、2011年に過疎地域に追加された。

思い出深いのは小学校の登下校路だ。

上級生が率いる列で登校する30分の道のりを、遊びながら下校して倍ほどかかっていた。遊び場は山裾や溝川、道沿いの茶畑、季節ごとにおやつも変わる。何気なく自然に触れる日常が、レイチエル・カーソンの「Sense of Wonder」の世界。

さらに大学2年の頃に経験した曾祖母の葬式が地域社会に対する印象を決定づけた。

大往生だった曾祖母は、自宅で息を引き取った。葬儀を行うため自宅に集まった「おとこし（男衆）」「おなごし（女子衆）」の見事な支度とその役割分担、細かく定められた取り決めに間近で触れて、一つ一つの慣習の背景にある意味を感じ取り、地域社会が守ってきた「わずらわしいもの」への愛しさが募ったのだ。

それ以来、冒頭のテーマが固まった。

通学路、茶の実を拾って歩くのも楽しかった





①「自分たちで楽しもう!」と作った絵地図 ② 早乙女衣装での田植え ③ 自主企画したオーナーと地元住民交流会

●おつきあい ①高島市畑地区

自身のテーマのヒントを求めて学生の頃から滋賀県高島市畑地区に足を運んでいる。

畑地区は「日本の棚田百選」に認定された359枚の棚田がある、約40戸の集落だ。耕作放棄地対策として「棚田オーナー制」を開始し、都市住民を中心に稲作を手伝うオーナーを受入れている。

2003年から数年は大学の講座で、熊本県水俣市の吉本哲郎氏が提唱する「地元学」の調査も行った。

「地元学」とは、地域の人「土の人」と共にヨソモノ「風の人」が地域の「あるもの」を探し、絵地図等にまとめていく過程から、自分たちの地域の可能性に気づき、それを活動につなげていく取組みだ。学生数名で「あるもの探し」の



4



5



6



7

④ 畑通いのきっかけとなった会 ⑤ 県事業の一環で竹藪一掃に取りかかった（作業中） ⑥ 一日ほどで竹藪を一掃した ⑦ それで生まれた眺望

成果をまとめ、畑地区の集會場で発表したが、当初はなかなか辛辣な言葉をいただいた。一次産業の苦悩や過疎高齢化の根深い不安に、その成果の意味がすぐには響かなかったのだ。

そのときの経験から、「この地域のリーダーになろう」「私たち自身がこの地域を楽ししみ、それを地元の人に感じてもらおう」と長く細く今も続く畑通いを始めた。

近年では、毎年通うオーナーも増え、地域の方の雰囲気も目に見えて変わってきた。農家民宿の取組みも始まり、地区内の整備一つとってもアイデアが出てくるようになってきた。「また来たな」と出合い「またね」と別れる関係が毎年顔を見られる小さな喜びに変わり、信頼を生んで、地元になんげと自信が根付いているように思う。

●おつきあい (2) 地産地消を応援

「あるもの探し」という意味では、昨年からM・O・H通信や生産者さんと共に行っている、地産地消を応援する交流会もヒントの一つだ。昨年11月に「よばれやんせ湖北」として湖北町にて開催したこの会は、地域の「あるもの」を見つめ、良さを活かして商品を生み出す生産者の思想や意気込みに触れられる機会である。また、「買い物」の意味を見つめ直せる意義もある。

地域の疲弊は人や物や金が都市圏へ流れ出てしまうところから生まれると再認識し、地域の生産者さんを応援する。それには、自分自身が自律した消費者として地域の物を選ぶことが必要だ。地域の中で物や金が回り始めると、人も動き始め、地域の活気につながる。そのサイクルの意義を感じられる会として発信を続けられればと思う。

●恋の行方……今思いつく

地域のありようは変わっていく。廃れ

るものもあるが、前向きな目線で地元と関わりを持って活動する人たちも増えて「地域社会」の大切さが見直されてきた。

そんな今、気になってい
ることは、祖
父母世代が
培ってきた
暮らしの知
恵の継承だ。
地域に「ある
もの」を辿る
と、自然と、
数十年前に
営まれてい
た自然環境
を多様に活

① 地産食材を見直す交流会 ② 作り手との距離が近い買い物で絆が生まれる ③ 生産者の方の熱意を聞く



1



3



2

◆ よばれやんせ湖北 参加生産者さん ◆

登場メニュー・紹介コメント・団体名・連絡先の順に紹介しています。

●天然ものピワマス

おいしさ極上の湖魚を食べてもらいたい！湖国の漁師さんです

朝日漁業組合 TEL：0749-79-0320

●マスコロ・ピワマスの糠漬け・炙り

熱意あふれるラーメン屋さん！地場産食材メニューを現在開発中！

梅花亭 TEL：0749-65-6450

●ピワサーモン（養殖ピワマス）

ピワマスのブランド化、安定供給を目指しておられます

(株)びわ鮎センター/鮎茶屋かわせ

TEL：0749-72-4110

●山カブのドレッシング和え（ツブリナ入りサラダ）

伝統の農法と新しい加工技術で人気の新商品です

ウッディバル余呉 TEL：0749-86-4145

●伊吹大根のおろし/湖北そば

食や文化…湖北の“ええもん”を発信！されています

湖北ええもんづくり本舗 TEL:0749-62-

0144（国民宿舍豊公荘内 担当：林）

●ご飯・米粉メニュー

安心のこだわり米、米粉お菓子、大人気でした
団体名：吉田農園 TEL：0749-73-2746（担当：吉田道明）

●具だくさんのお味噌汁

子どもたちの「食育」、楽しく取組まれています

ごはん大すき！にぎにぎの会

mail：niginiginokai@yahoo.co.jp

●佃煮（イタドリ・食用アザミ）

味噌や漬物、山菜弁当、地域の味を販売
甲津原漬物加工部 TEL：0749-59-0225

●赤カブ漬け物

彩り美しいカブのお漬物。お茶請けにも◎
筑摩赤丸生産グループ TEL：0749-52-4399

●白菜たたみ漬け

白菜を丁寧に重ねて漬けた、独特の伝統食品です

三姉妹本舗 TEL：0749-73-3802

●パンいろいろ・トチの実クッキー

地域の素材を活かして、多彩なパンを焼いておられます

Mom's Kitchen TEL：0749-86-2562

●豆乳ぶるん

1ターンの豆腐屋さん。大豆の甘みあふれる味がします

あやべとうふ店 TEL：0749-74-2445

●葉草茶（ヨモギ・ピワ・イタドリ・ゲンノショウコ・クマザサ）

伊吹地域に伝わる葉草茶、いっぺん試してみやんせ

谷口康さん（米原市上平寺）葉草茶ご購入は道の駅「旬彩の森」へ

●きたい かおり 1981年、奈良県生まれ。京都精華大学環境社会学科卒。子ども流域文化研究所スタッフとして水害履歴調査に従事後、NPO法人木野環境に勤務し、地域支援関連の業務を担当。まだまだ学びの途中。

一歩ずつ！
北井香

かし、しのぎ、築いてきた暮らし方に行き着く。環境がいくら変わっても、地域の暮らしの原点は、きっとこれからの時代によい示唆を与えてくれる。

故郷を離れている私が言うのも何だが、両親が老いた頃に子が成年となり地域や家族が継承される。そんな世代構造で地域がなくなってきたことを思う。

この先もっと社会が変化する中で、祖父母世代の知恵を孫の世代に引き継げるか。今後の地域の鍵を預かっている気持ちで、取組み続けたい。

花屋でイチゴが買える!? 純野菜王国のチャレンジ



吉安 純一郎

純野菜王国 国王

何気なく入ったお花屋さんで、イチゴが売られているのを発見。「なぜ「こ」で?」という素朴な疑問をたどって、ひとりの農業青年と出会いました。



長浜の生花店「はなくらぶ」で花を買ったとき、カウンターに置かれたイチゴのパックが目をひきました。色とりどりの美しい花と艶やかなイチゴの赤。フレッシュで心浮きたたせるような取り合わせです。でも、よく考えてみると生花店で果物が売られているのを今までみたことがありません。「お花屋さんでイチゴを売る」という新しい発想がどこから生まれたのか気になって、このイチゴを生産した「純野菜王国」を訪ねました。

北陸自動車道の長浜インター近くの畑地にみえるイチゴ色の直売所が純野菜王国の目印。イチゴ狩りができるビニールハウス内はイチゴの甘い香りでいっぱいです。純野菜王国・国王を名乗る吉安純一郎さんは農業研修の後、



1

- ① ビニールハウスではイチゴが行儀良く育ちます
- ② レジの横にありました。なんとも美味しそうで・
- ③ はなくらぶ外観
- ④ 「よく売れますよ」とスタッフの皆さん



3



4



2



① 環境の変化がないように、愛情いっぱい育てます ② ハチがいなくては受粉できない ③ おいしそう〜 ④ 王国いちご狩りは好評です

「一国一城の主」となるべく5年前に独立。12月から5月のイチゴを中心に、夏はイチゴの苗作りのかたわらキュウリやトマトを奥さんと二人で栽培しています。完熟させた新鮮なイチゴの甘いこと！

イチゴと花を一緒に売るという斬新な発想に驚いたのですが、吉安さんが生花店のご家族と知り合いだったからと、きっかけはいたってシンプルでした。花を買いに来た人が「手土産にイチゴも」と思ってもらえるかもしれない、売り上げではなく、売り方の広がり求めてのこと。「規模拡大よりも限られた面積でいいものを作りたい」「継続的でささやかな努力が必要で、常にまじめに頭を使って世話をしなくてはいけない農業はおもしろい」と笑顔で話す吉安さん。イベント向けに髪の毛までイチゴ

色に染めてしまうほど、イチゴ一色の毎日です。農業とは縁のない家に生まれ育ち、大学で水産を学んだという異色の経歴をもつ若き農業者・吉安さんの挑戦はこれからも続きます。

純野菜の美味しさを 世界をノック心を豊かに

国王 吉安純一郎

● よしやす じゅんいちろう 1980年長浜生まれ。東海大学海洋学部水産学科卒業後、グリーンパワー長浜で農業研修。2007年に独立して開園。

● 純野菜王国

長浜市榎木町

TEL 090-8822-8860 (受付時間9〜17時)

メール: mail@junoukoku.com

火曜定休

ホームページ: <http://junoukoku.com/>

ブログ: <http://blog.goo.ne.jp/gen7641>

● はなくんが

長浜市大成多町1-14-3

TEL 0749-63-2022



女将さんの話にひきつけられて(料亭小島)

地域創造事業「いきいき地域ウオーク」

彦根袋町 遊里・貸座敷探訪

- ◆日 時 / 2011年11月26日(土)
- ◆場 所 / 10:00 JR彦根駅集合 → 袋町、花しょうぶ商店街散策 → 料亭小島着 → 研究ノート「地方遊里について」坂下弘徳氏発表 → 女将講演 → 貸し座敷見学 → ファンデーション製造会社見学 → 15:30近江鉄道彦根駅口解散
- ◆参 加 / 18人
- ◆主 催 / NPO法人コミュニティ・アーキテクトネットワーク(環人ネット)
- ◆イラスト / 福山聖子



大正5年遊客人名簿

彦根 袋町を訪ねて

福山聖子

花街の歴史を振り返るとき、たぶん男性にはない、女性だから感じる「しこり」のようなものがある。かつての色街には、どこか踏み込めない、

好奇心だけでは語れないものがあり、そんな「しこり」を持ちつつ、彦根袋町探訪ウォークに参加した。

集団でゾロゾロとまちなみを見て歩く私たちに、

表に出てきた女性がはんなりとした言葉で声をかけてきた。「よう来ておくれやした。この辺は遊郭街で

いまはスナックばかりになったけど、昔はもともとよかつんや、

ほんまに、ええおうちがありましたんや」。ここで暮らして

きた彼女の我が町を愛するキモチがその口ぶりから伝わって

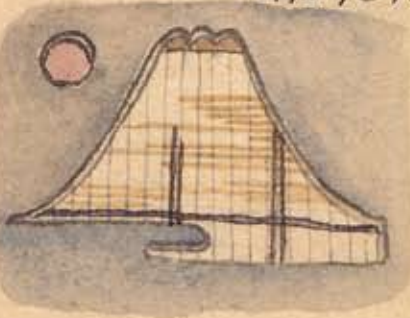
きて、胸の中の露が晴れてゆくようだった。

料亭 小島の女将も、町のにぎわいを取り戻したいと語った。

今となってはなかなか再現できない料で凝った意匠の建物を活かし、心づくしのおもてなし文化を継承していけたら、小島のお座敷で美味しい料理をいただきながら、そんなことを考えた。



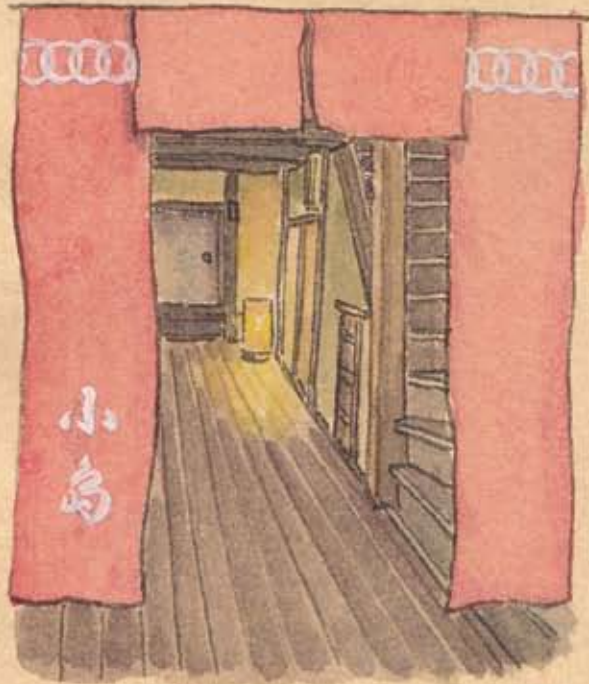
明かりとり窓のいろいろ



釘を使わず組まれた
出窓の木枠



欄干に咲く花



料亭小島の片隅で
眠ったままの三味線



● ぶんやましまし「朝日新聞滋賀版など」近江の暮りしの風景を絵と文で連載。
画文集「夕昏の匂い」オレンジ色の空―近江の日々を描いて―（工房森のしずく刊）



彦根袋町遊廓は芹川のせせらぎを間近に聞く、城下町の片ほとり。橋本町、花しよぶ通り（上えびす商店街）に囲まれた東西2本、南北3本の小路、この小路の両側にずらりと並んでいた紅灯の町だ。時代とともに、遊廓、特殊飲食店、赤線地帯と世の推移とともにその名称こそ変われど、明治時代より続く湖東地方最大の花街・色街であった。何かにつけて古い城下町の

慣習にあつて遊廓の起源は新しい。もともと徳川時代に城下町は城を守る要塞の役割を果たす重要なものであっただけに、色街である遊廓設置については厳しいものであった。かくて彦根に正式に遊廓が出来たのは廃藩置県も終わった明治4年（1871）4月で、今から140年前。このころ郡市役所（いまの県庁）から発行された県下で最初の

公娼免許地であった。いまでこそ、遊廓は死語に等しいものになったが、当時は「現実社会と隔絶された別世界」人々を非日常の世界へと導く娯楽の場所であった。そんな遊廓を少しばかり感じてもらいたく、今回は袋町の料亭「小島」で食事をしながら小島女将の話を聞き、袋町に現存する貸座敷を見学し、当時の様子を知ってもらいたいと思ひ企画した。

●さかしたひろのり＝1964年生まれ。2009年京都産業大学大学院経済学研究科修士課程修了。2010年滋賀県立大学大学院人間文化学研究科博士後期課程入学。専門は地方遊里史。現在、滋賀県内に存在していた遊里・遊廓・花街の実態研究中。

- ① はなしよぶ通りには大衆浴場 ② 料亭小島 ③ 二階の座敷
 ④ 貸し座敷を散策中「二階に情緒が…」当時の面影が残ります
 ⑤ こちらは贅沢なつくりです ⑥ アーチと網代が印象的 ⑦ ファン
 デーション製造発祥の地ですが、現在は企画が中心



後継者育成に尽くした女性 —西谷善蔵の母

末永 國紀



西谷善蔵の母の手紙（兵庫県立歴史博物館蔵）

全国を商圏とした近江商人は、行商先・出身地別の会員からなる商人団体を組織した。競争を避け、相互扶助を図り、権益を守るためである。

和歌山方面では若菜講、伊予松山には住吉講、北海道は両浜組というように各地に商人団体を結成した。仙台・最上・福島地方に進出した近江八幡出身の商人たちの組織したものが恵美寿講である。

宝暦14年（明和元年、1764）の「恵美寿講帳」によれば、会員は、仙台の寺村与左衛門、福島の西谷善太郎・西谷治左衛門・内池三十郎、山形の西川久左衛門・西谷善九郎・西谷権右衛門、磐城国瀬上の内池与十郎、天童の内池宗十郎、出店先不明の森亦三郎の10人であった。

西谷善九郎家は、西谷善太郎家から寛文6年（1666）に分家して、福島島と山形に「ヤマダイ」の家印をもつ

西屋という屋号の出店をそれぞれ設けた。山形の繁華街である十日町にあった出店の店名は、西屋清兵衛と称した。

西屋清兵衛の商売は、山形では上方の呉服を商った。また、現地で仕入れた紅花・苧麻（麻布の原料）・生糸などの商品を船で最上川を経て酒田に下し、さらに越中伏木・越前敦賀から八幡や京都へ送った。諸国産物廻しの商法である。

兵庫県立歴史博物館の所蔵する「近江商人西谷家文書」には、西谷善九郎家の西谷善蔵が当主として初めて山形の出店に下向する際に、善蔵の母が与えた寛政元年（1789）作成の手紙が含まれている。第10回でも紹介した。表題は「店表滞留の内、日夜心懸けの事」とあるので、若い当主として善蔵が出店に滞在している間に、日夜心掛けるべきことを教え諭した訓戒の書である。8力条と後書きからなっている。

第一条 朝起きに努めること。起ち居ふるまいは行儀好く、飯にも冗談がましいいざれ言を言わず、身持ちを正

しく守ること。大酒大食といった不養生をせず、とくに色欲をつつしむこと。当主としての自分のふるまいが、善悪ともに店の印象に反映することをわきまえること。

第二条 朝から晩まで店に出て、家業見習いに努めること。同業の商人衆に對しては謙虚な態度で丁寧に対応し、その他の懇意先や出入りの衆にも同様の態度をとること。

第三条 衣服や手回り品などの身に着けるものは、ぜいたく品を避けること。普段の着衣は、夏冬ともに質素を旨とし、五節句などのハレの日に青梅縞・越後帷子などの古いものを着るのは構わない。

第四条 物見遊山は控えなければならぬが、店商いの暇な時に、後見人や支配人の了解を得て、2〜3回神社仏閣へ出かけたり、野山へ気晴らしに出かけたりするのは構わない。その際、かならず奉公人のお供を連れること。

第五条 健康維持のため、店務多忙でも毎月2度は全店員が灸治を受ける

ようにすること。

第六条 家業に暇ができた時は、習字や算盤を稽古したり、聖人の書を取り出したりして修養に努めること。

第七条 店員には慈悲の心で接すること。特に幼い店員に道に外れた行爲があれば密かに注意を加え、ささいなことであっても善行があればすぐに褒美をあたえること。また、年上の店員から若当主である自分に苦言を呈されたならば、早速聞きいれる素直さをもつこと。忠言は耳に逆らい、良薬は口に苦しいというように何事も堪忍を専一にして、言葉遣いを柔和に保つことである。たとえ心に叶わないことがあっても、腹を立てたり、顔色に表したり、言葉が荒立てたりしてはならない。

第八条 店の内外の運営については万事を後見・支配人に任せて、口出しをしないこと。もし不行届きなことがあれば、後見・支配人に内々に伝え、後はその取り計らいにまかせること。

後書き 今度の初めての出店への下向は、商用見習いによる店務上達が第

一目的である。店の経営に不備があっても、その場で善悪を指図せず見聞に徹し、本宅へ戻った後で相談役に図つてから改めて指令を出すことである。

教諭の内容は、細やかで具体的である。若当主として修養を積むことを求め、店員への接し方から、店の運営、幹部店員との距離の取り方にまで及んでいる。店務に精通した当主となることを何より求めているのであり、年若い息子へ後継者としての資格を備えさせようとする情理を尽くした訓戒の書である。

近江商人に学ぶ 末永國紀

●すえながく(こと)1943年生れ。同志社大学経済学部教授。経済学博士。(財

近江商人郷土館館長。

著書『近代近江商人経営史論』(有斐閣、

『近江商人』(中公新書、『近江商人入門』

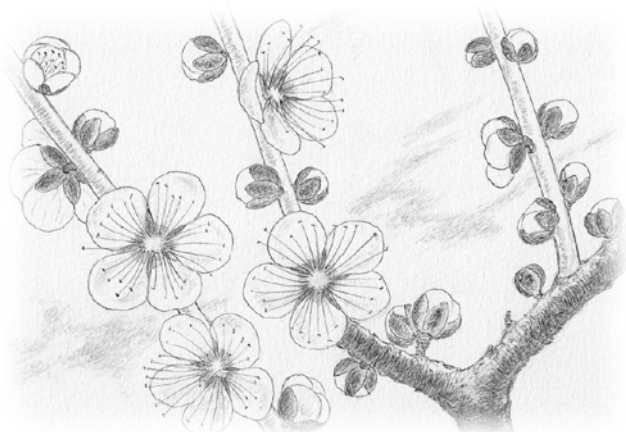
(サンライズ出版、『日系カナダ移民の社

会史』(ミネルヴァ書房、『近江商人 三方

よし経営』(学心) (ミネルヴァ書房)

梅に鶯

畑 裕子



イラスト：徳永 拓美

我が家のささやかな庭に高さ二メートルほどの梅の木がある。毎年、鶯が姿を見せてくれるがこの木の上で美声を発したのを聞いたことがない。居間の窓にあまりにも近いためかもしれない。それでも季節になると必ず春の喜びを近くから告げてくれる。

鶯だけではない。

古歌に詠まれた鏡山の麓の住人を様々な鳥が訪問してくれる。無知な私ははじめ、メジロを鶯と思い、笑われたくらいだ。考えてみれば鶯色とは、緑に茶と黒のかかったうぐいす茶と言われる色合いでメジロの鮮やかな緑色とは大違いである。いつからか冬になるとミカンを半分に分けて木に刺し、メジロの飛来を待つようになった。

梅雨もまじかいある日、梅の木に鶯に似た小鳥がやってきてせつせと何かを運んでいる。注視していると細長い枯れ葉を口にくわえているようだ。まさか人家の庭に巣を作るわけでもあるまいと気に留めることもなく一日、二日が過ぎた。そして三日目、梅の木の枝と枝の間に球体の巣ができあがりつつあることに気づいた。何ということだろう。沸き立つ胸を静めながら家人を呼ぶ。が、声は上ずっていた。

巣の主はまさしく鶯色。が、鳴き声はホーホケキョではない。チャッチャとときおり鳴いては去っていく。鶯のようでは無い。かの鳥への慕情捨てがたく、鳥類図鑑を調べた。「鶯はササヤブのある林にがついですみ、ササの枯れ葉を使った球形の巣を作る…ホーホケキョというさえずりはよく知られているが、ササ鳴き、といわれるチャツ

チャツという地鳴きもある」私の心は躍り、天にも昇る気分であった。

我が家の裏にはかつて植木鉢に植えていた観賞用の竹が根を下ろし、ササの生垣となつている。どうやら鶯はそこに落ちてゐるササの枯れ葉をくわえてきたようだ。篠竹の恵みと称して毎年筍を賞味させてくれる貴重なササでもある。夏にはさやさやと生温かい風を涼風に変化（へんげ）させる情趣あるササの垣根なのだった。

梅雨も明け、盛夏となつたころ、微かに雛の鳴き声が聞こえるようになった。歓喜が全身を貫き、親鳥が緑の細長い虫をくわえているのを目にした時には胸がいっぱいになった。親鳥は警戒しながら頻繁に餌を運んでいる。あるかなきかの声に耳をすましてゐるうちに我が家の雛たちを見てみたくなつた。親が飛び去るや梅の木に近づいた。背伸びして巣を覗こうとするとききなり黄色い嘴がぬつと出てきた。慌てふためき瞬間的に身を引いた。雛鳥は私を親鳥と間違えたのだろうか。ぬき足さし足のはずであつたのだが。人心地

つくくと無性に愉快になつてきた。「くちばしが黄色い」という諺が耳裏をかすめていった。

ある日、親鳥が激しく鳴きはじめた。異変がおきたのでは、と梅の木の周辺を見たが、常と変わらない。が、親鳥の鳴き声は止まず、いつそう強くけたたましくなつていく。いぶかしく思う私の眼前で一羽の雛鳥がバタバタと飛び立つた。続けて二羽、三羽。ところがそのうちの二羽が居間のガラス窓に衝突し落下。急いで助けようとする私の手より雛鳥がわずかに早かつた。雛鳥たちは親鳥の声に導かれざざんかの垣根の方向に飛び立つていったのである。

その直後、一匹のへびが植木の陰から現れた。庭の犬が激しく吠える。親鳥はへびの襲来を感じし、鳴ける限りの大声で危険を告げていたのだろうか。危機一髪で修羅場は避けられた。とんだ巣立ちであつた。

鶯が人家の庭の木に巣作りするはずがない、と言う人もある。が、「例外のない規則はない」という諺もある。この鶯は例外を作つてくれたのだろうか。

雛鳥さん、どうかご無事で。うらかな春のある日、巣立つた鶯が我が家の庭でさえざる姿を夢見るのだった。

畑裕子

●はた ゆつこ 1948年京都府生まれ。奈良女子大学文学部国文科卒業、京都で国語教師を勤める。その後、滋賀県に転居。1993年、第5回朝日新人文学賞受賞、1994年、第14回地上文学賞受賞、滋賀県文化奨励賞受賞。主な著書「画・変幻」「近江百人一首を歩く」「椰子の家」「近江戦国の女たち」など。日本ペンクラブ会員。

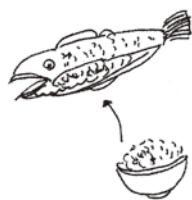
徳永拓美

●とくなが ひろみ 1949年生まれ。日本画を学び、日春展、京展、新興展、滋賀県展に入選を経て挿絵も描く。「いぶきのやさ、かろつ」（京都新聞社、「守山の野鳥ガイドブック」（守山市立教育研究所）、「甲賀のむかし話」（サンライズ出版）、「イルカをおそった黒い波」（汐文社）など。レイカディア大学「手作り紙芝居講座」講師。

山暮らこ子育て日記

作 オミユキ

サバのなれずしは、塩サバに、塩をまぜたごはんを詰めて、



朽木の代表的な発酵食品といえば...

サバのなれずし!!



独特のにおいがあり、「腐てる」とも感じる人もいろいろありますが、

重石を置いて、半年以上、ねかせると、

やみつきになる人も多いヨ。



樽に並べていく。山椒や唐辛子、塩を加えながらサンドし、



お節はよう作らんけど、こうい漬けは作ろかな

と、近所のおばあさんと、

朽木では、正月の一品に欠かせない。




さて、昨年末、オミユキがトライした発酵食品は...


にしんと大根のこうい漬け




ろくに下に置いていたにしんを、テン(小動物)が一晩で半分も食べてしまった、って言うたな...



そつえば、昨年もおばあさんにしんをたくさん買ったな...



地元のスーパーには、鼻欠きにしんがズラズリ...




「オ、オミユキもトライ!」

サクセリにした大根、にしんとして塩を樽にサンドしていき、



こうい漬けは、店でほとんど売ってないので、食べたかったら自分で作るしかないのだ。

だからおんな作らんだー



おばあさん、怒ってたけどめげずにまた買ってきてたな!



重石を置いて数日待つ。
水が上れば成功。

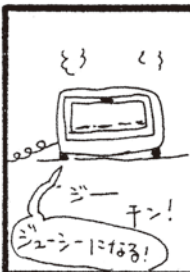


上からなければ、重石が軽い
が、塩が足りない。

漬けてから10日ほどで
食べられる。

日持ちしないので1ヶ月
以内に食べ切てね。

にんじんはトースターで
あぶってもおいしいよ。



さて、大根を使った
発酵食品といえは...
やっぱり



2週間ほど天日干しに
して、しなっとなった
大根を、



米ぬか、塩などで
サンドして重石を置く。

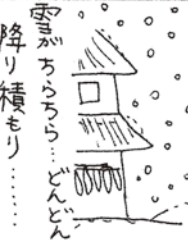


これも水が上ればOK!
1ヶ月もすればでき上がり

こちらも、
大根を干すまでは
順調に。



そろそろ漬けないと...と
思っていた頃、



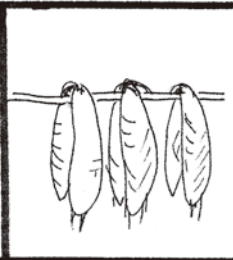
雪かきに追われて
ぬか漬はそっこのけ。



オマケに子もたちの
冬休中に突入。



日に日に大根は乾き、



1月下旬には
しななしどころか
しわしわにぬ



と、その時、隣の
おばあさんからのチキッが
入った。



もう、
漬けんには
ならんさけ、
大豆と煮たら
ウマイぞ。



ウチにも
2本ほど
分けて
くれや。



●オノミユキ(本名加藤みゆき)1974年生まれ。滋賀県志賀町育ち。
1997年に朽木村現高島市に移住。朽木の自然行事、人間なごを3冊の本にまとめ出版。現在は3人の子どもを子育て中。

本の紹介

最近入手した、気になる本・CD・DVDをご紹介します。

BOOKS

永遠に捨てない服が着たい
く太陽の写真家と子どもたちのエゴ革命



著者／今関信子
発行／汐文社
価格／14000円＋税
内容／体操服のリサイクルを小学校で実現させた物語。弊誌2号（2008年冬号）で紹介した岡部君と執筆者の一人である森孝之氏が登壇。

わたしのほたるき

著者／西村佳哲
発行／弘文堂
価格／18000円＋税
内容／全国から数百人が奈

良の図書館に集まって、自分の仕事“について考えた。”



地域再生 滋賀の挑戦



責任編集／森川稔
編／近江環人地域再生案座
発行／新評社
価格／30000円＋税
内容／琵琶湖を中心に独特の文化圏を形成した滋賀。その地から発せられる創造的な実践の数々。

豆の葉と太陽



著者／柳田國男
発行／創元社
内容／弊誌前号にて嘉田知事のインタビューで引用された本。場の美しさを柳田目線で緻密に語る。

おつみ路



編集・発行／滋賀県トラック協会
内容／滋賀県トラック協会が発行する広報紙。

びいめぐる 84



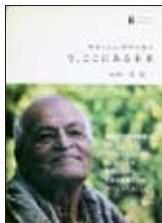
編集・発行／NPO法人ひいめぐる企画室
内容／今回は湖南市特集、県内のフリーマーケットなどを網羅する。お役立ちフリーペーパー。

昇る！昇れ！昇るとき



発行／滋賀県立安土考古城古博物館
内容／日輪と龍のメッセージを伝える。3・11東日本大震災復興祈念。

サティシユ・クマールの今、ここにある未来 With 辻 信一



企画・編集／ナマケモノ倶楽部
発行／ゆつくり堂
価格／30000円＋税
内容／自分が平和を生きて、人の手で作られたものは人の手で変えられる。シューマッハーとガンジーの思想を引き継いだ同氏が、益戸育江・加藤登紀子と語る。

講演日記

皆様のご支援でたくさんの講演依頼を頂きました。2011年12月～2012年2月の講演をダイジェスト版でお知らせします。

淡海こどもエコクラブ表彰選考

- 日時平成23年12月4日
- 主催 琵琶湖博物館
- 対象 幼・小・中学校、地域のエコ活動クラブ
- 目的 クラブの交流と活動賞の授与
- 会場 琵琶湖博物館ホール
- 参加 1,000名
- 委員 篠原徹委員長、松村良樹、辻村琴美、21世紀淡海こども未来会議議員

i・BIRDセミナー

- 日時 12月9日
- 主催 石川県立大学
- 対象 会員
- 会場 石川県立大学

- 参加 20名
- 講師 森建司

内容「中小企業にしかできない持続可能な社会の企業経営〜共生経済社会への意識改革〜」

第26回執筆者懇談会

- 日時 平成24年1月23日
- 主催 弊誌
- 対象 執筆者
- 目的 編集会議
- 会場 安兵衛
- 参加 14名
- 内容 35号、36号企画

女性経営者等新春セミナー



- 日時 1月30日
- 主催 しが中小企業女

性中央会

対象 会員と社員

目的 啓発と交流

会場 グリーンホテル

Yes 近江八幡

参加 41名

講師 森建司

内容 近江の循環型社会システム生産者・販売者・消費者

「共生経済社会」への思想転換

交流 Lifea(リーファ)

ライプ

甲賀市小学校教育研究会環境教育部会主

任研修会

日時 2月7日

主催 甲賀市小学校教育研究会環境教育部会

対象 環境教育主任

目的 事例発表、講話

会場 佐山小学校コミュニティルーム

参加 20名

事例発表 油日小学校

立岡教諭

講話 森建司

湖北経友会定例会

日時 2月10日

主催 滋賀銀行湖北経友会

対象 会員企業

目的 研修

会場 北びわ湖ホテル

グランドツイエ



内容 循環型社会の人づくり、まちづくり

農と食の「こだわり」を実践する

日時 2月11日

主催 立命館大学琵琶湖Σ研究センター、明

会場 長浜、バイオ大学

参加 70名

内容 吉田道明、家倉

敬和、清水大輔、熊谷

英彦、森建司、大塚良

彦によるパネルディス

カッション

アグリビジネスカフェ

「目指せ！農業経営

で地域活性化！」

日時 2月23日

主催 社団法人バイオ

ビジネス創出研究会

対象 二般

目的 取組み報告とパ

日の農と食を考える研究会

対象 オープン研究会

会場 立命館大学びわこ

くさつキャンパス・サイ

エンスコア5階

参加 80名

内容 農業・梅村元成

行政・松井賢一、消費

者・成田賀寿代、大学

・久保幹の各講師

挨拶 森建司

第4回いきいき地域ウォーク 「豊郷・愛荘歴史探訪ウォーク」

愛知旧郡役所や伊藤忠兵衛記念館、豊郷小学校旧校舎群に代表される湖東地域の歴史的建造物を探訪します。

- ◆2012年3月31日(土)
- ◆スケジュール

9:50～	近江鉄道 愛知川駅前にて受付開始
10:00～	近江鉄道 愛知川駅前に集合
↓	徒歩にて愛知郡役所へ移動
10:15～	愛知郡役所到着
↓	案内 富永千弘氏(近江環人) 現地にて
10:30～	中仙道を徒歩で北上
11:10～	豊郷町吉田着
↓	岡村酒造さま見学
11:40～	タルタルーガ(滋賀県立大学学生の経営するレストラン・バー)にて食事
↓	食事と平行して滋賀県立大学学生と懇談
13:00～	タルタルーガ発
↓	徒歩にて豊郷小学校方面へ移動
13:15～	豊会館(又十屋敷)見学 ※別途料金有
14:00～	伊藤忠兵衛記念館見学
14:45～	豊郷小学校旧校舎(アニメ「けいおん!」の聖地、ヴォーリス建築)見学
15:30～	近江鉄道「豊郷駅」へ 順次解散

- ◆費用:一般1200円、NPO法人環人ネット会員1000円(昼食代込)
- ◆主催:NPO法人環人ネット
- ◆申込:info@kanjin.net

自治とまちづくりの原点 講演会

湖東定住自立圏地域創造事業「ヴォーリス建築旧日夏村役場再発見事業」として、ヴォーリス建築である旧日夏村役場及び産業組合合同庁舎の建物調査を推進しており、この調査成果を広く周知いただくため講演会を開催します。

- ◆日時:3月17日(土)
13:30-14:00受付 14:00-16:30講演会
- ◆会場:日夏里館(旧日夏公民館)
彦根市日夏町2908-5
- ◆参加費:無料
- ◆協力:日夏里館利用団体の会
- ◆主催:日夏ヴォーリス建築の会
- ◆後援:NPO法人環人ネット
- ◆「残っていた旧日夏村役場・産業組合合同庁舎と設計図」
滋賀県立大学教授・旧日夏村役場建物調査委員
濱崎一志氏
- ◆「次世代に継承するコミュニティづくり」
滋賀県立大学准教授・旧日夏村役場建物調査委員
鵜飼 修氏

M・O・H
せんりゅう

♪第6回MOHせんりゅうコンテスト2012応募作♪

皆様ありがとうございます

《長浜北小学校4年3組の作》

- ① さむいよる エアコンつけずに ゆたんぼだ
- ② むだづかい ぜったいあとで こうかいだ
- ③ もったいない けしごむ一つ だいにね
- ④ お年玉 すぐに使うと こうかいだ
- ⑤ いつのまに ポイすてやめて リサイクル
- ⑥ もったいない ペットボトルも リサイクル
- ⑦ さむいよる こたつをやめて ゆたんぼで
- ⑧ もったいない やぶれた服は リサイクル
- ⑨ おかねを 使いすぎるのは もったいない
- ⑩ 食べすぎは おなかかふとる ほどほどに
- ⑪ せんせいの おかげでわたし かしこいね
- ⑫ もったいない 使わないのに お金のむだ
- ⑬ おこずかい 計かか的に 使おうね
- ⑭ もったいない 電気つけたら すぐけそう
- ⑮ もったいない お金ばかり つかわない
- ⑯ リサイクル しっかりしよう 大切に
- ⑰ ふるくても つかえる物は つかおうね

- ⑱ 無だづかい お金使いは ほどほどに
- ⑲ もったいない 水のむだ使い やめようよ
- ⑳ さいごまで あきらめないで がんばろう
- ㉑ もったいない いらぬ物は リサイクル
- ㉒ もったいない きたないごみも エコの道
- ㉓ もったいない やったプリント ビリビりに
- ㉔ 米一つ のこさず食べよう 大切に
- ㉕ ありがとう いつもごはんを 作ってくれて
- ㉖ 省エネは 少しの努力で できること
- ㉗ 両親の おかげで私は いきている
- ㉘ もったいない ひろったごみも リサイクル
- ㉙ もったいない ゴミ一つさえ リサイクル

《一般》

- ⑳ MOH通信 ひとりで読むには もったいない
- ㉑ 上り坂 下り坂 ま!さか
- ㉒ マータイさん 「もったいない」を 遺し逝く
- ㉓ 冷却水 まけば漏れ出す 放射能

手話
コーナー

手話で話そう、好きな食べ物

協力:びわこみみの里



三崎 美雄さん

- 好きな食べ物 うなぎ
- 私の夢 電車の運転手。高校卒業後地下鉄の試験を受けましたが、残念でした。

吉村 直士さん

- 好きな食べ物 魚サケ、サバ、ブリ、イワシ、タコ、イカ

いいもの
みつけた

麴屋吉右衛門の甘酒と塩麴

- ◆甘酒 (3パック) = 300円
- ◆塩麴 (魚や肉にまぶして使う調味料) = 250円

浜大津アーカス内湖の駅にて。
滋賀県野洲市の近江富士のふもとで麴一筋4代目。麴・甘酒・味噌を製造販売。昔ながらの製法で、美味しい。日本古来の醗酵食品は心にも体にもいい。

「循環型社会を目指す～M・O・H通信～」の 発行に当たって

代表 森 建司

20世紀型社会は経済至上主義の時代であった。科学技術の進歩とそれに伴う工業や流通の発展は、世界的なスケールで人々に物による恩恵をもたらしたが、同時にバランスのとれた自然との共生社会を破壊した。経済至上主義とは物の豊かさを最高の幸せとして捉え、その対極にあるものの価値をほとんど消し去ろうとするものである。人々の価値観を情報操作で画一化して、特定のものに集中させようとするマーケット戦略は個人の人生観、社会観にまで侵入し、その独自性、不可侵性まで奪って行った。このことによって人々は哲学的な意味の自己をなくしてしまった。

今こそ新しい時代として循環型社会を作ろうとしているわれわれは、自己を証明する、こころとか思いを取り戻さなければならない。死生観や人生観、先祖や子孫、生涯をかける志、自己を自己らしく生き抜くための人生哲学など。そしてそれは自然との共生社会を目指すものであり、人としての真の生き様を問うものであらねばならない。

この実現のために

「循環型社会を目指す～M・O・H通信～」を発行する。

《 M・O・H通信概要 》

■目的

- (1) 循環型社会構築に向けた意識改革
- (2) 浪費型社会念の脱却
- (3) 人生哲学を学ぶ

■事業

- (1) 通信の発行及び出版
- (2) 講演会、勉強会、シンポジウムなどイベントの開催

■事務局

〒526-0111

滋賀県長浜市

川道町759-3

循環型社会システム研究所

TEL.0749-72-5277

FAX.0749-72-8681

e-mail:tsujimura@

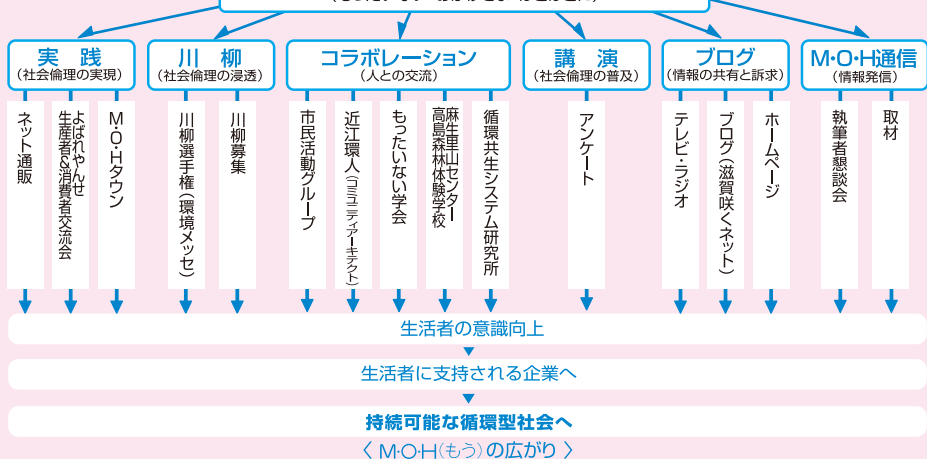
shingoshu.co.jp

代表:森 建司

担当:つじむら ことみ

[M・O・Hコンセプトシート]

M・O・H＝循環型社会をめざす言葉
(もったいない・おかげさま・ほどほどに)



読者の声

★ 移り住むなら……湖西高島！

高島市 是永 宙

★ 滋賀の知人から見せてもらい、すごくすごく気に入りました

宝塚市 平田智子

★ 愛読しています

彦根市 奥田好香

★ 仲間と京都四条河原町に出かけた帰り、漬物屋西川のギャラリーに立ち寄り関西プロ写真家作品展で、辻村耕司さんの作品を見つめました。

おやじのたまり場 後藤耕司

★ 社会の切り取り線が新鮮で納得しています

西宮市 西本椰枝

★ 34号たいへんうまく仕上がっているといます。民間の発信が心強いです。

「美の滋賀」発信推進室 宮川

★ 某N〇〇のぬくもりの里で漫画家の加藤みゆきさんが出ておられました。山暮らし子育て日記愛読します50年前は不便な生活でした。手間ひまかけてしんどい思いをしました。布団の打ち直し、洗い張り、繕い、傘の張替え、鍋の修理の錆掛け屋さん…。今から思えば懐かしいです。西日のあたる暑さ対策は遮光カーテン、遮熱カーテン、すだれ、遮光ネットでエアコンは使いませんでした。大震災という大きな犠牲をはらって何かが変わらなければ人間は大バカ者です。

京都 岸田二京子

★ 「魅力発見発信プロジェクト発表会」にお越しいただきありがとうございました。学生たちも自分たちのことを伝えたいという気持ちを強くもてたようで本当に良い学びの機会となりました。

長浜バイオ大学 松島

★ とても骨太な中身ですが「もう通信」というなんとも穏やかな響きの冊子名が良いですね。藤村靖之さんの著書を注文しました。

京都市 土永 聡志

★ ドイツのエランゲンでBundnaturschutzの果物畑プロジェクトを手伝っています。

ドイツ 古田紀子

★ 愛読させていただいています

彦根市 奥田好香

★ 世の中の変わり目をしっかりと見ていかならぬか、と思っております。

守山市 徳永拓実

★ 野洲生活学校に大きな力を頂きありがとうございます。良い会員がいっぱいます。今後ともよろしくお願ひします。

野洲市 落合房子

★ 今年も楽しくするために誌面づくりを期待しております！

彦根市 松宮秀典

★ いつも楽しく読んでます

守山市 小林匡哉

★ 崩壊するエネルギー基盤、世界はその先に何をみるのか

逗子市 石井吉徳

《次号予定》

2012年6月発行予定

■特集：『変革』企業の取り組み

- 対 談／「新産業と新地域づくり」滋賀県立大学学長+森建司
- 対 談／「日本の食を見直そう」立命館大学海老教授+富久屋・金森社長
- 取 材／「エネルギーの入口から出口まで」東亜電機工業社
- 取 材／「農機具から農作業へ」ヤンマーアグリイノベーション
- 寄 稿／「もったいない・おかげさま・ほどほどに共生社会の中小企業経営道」森建司ほか
- 連 載／通常通り

※ 敬称略、予告なく変更いたします

編集後記

今号は地域「ふるさと」を取り上げました。ふるさとは郷愁を抱きますが、どういうふるさとを作ろうか？という風には考えにくいものです。しかし、3・11東北大震災を目の当たりにして、今、目の前にある風土がいかに貴重かを思い知りました。天災の被害は今のところ少ない滋賀県ですが、私たちができる、ふるさと作りを考えてもいかな、と思いました。若い力を大いに発揮できる地でありたい、との願いを込めて。

こと